別記様式第２号（その１の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

基　本　計　画　書

基　本　計　画

事項	記入欄	備考
計画の区分	学部の学科の設置	
フリガナ 設置者	ｶﾞｯｺｳﾎｳｼﾞﾝ ﾌｸﾊﾗｶﾞｸｴﾝ 学校法人　福原学園	
フリガナ 大学の名称	ｷｭｳｼｭｳｼﾞｮｼﾀﾞｲｶﾞｸ 九州女子大学　(Kyushu Women's University)	
大学本部の位置	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番1号	
大学の目的	本学は、教育基本法に則り学校教育法の定めるところにより広く知識を授けると共に、深く専門の学術を教授研究し、応用的能力展開と人格の感性に努め、我が国の文化の高揚発達に貢献する高い知性と豊かな情操を有する女性の育成を目的とする。	
新設学部等の目的	学是「自律処行」の精神に基づき、心理・文化学科は、人間の心理と文化に関する専門性と広い視野を有し、社会に貢献できる、豊かな人間性と高い倫理性を備えた人材を育成することを目的とする。	

新設学部等の概要

新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地
	年	人	年次 人	人		年　月 第　年次	
人間科学部 ［Faculty of Human Sciences］ 心理・文化学科 ［Department of Psychology and Culture］	4	90	—	360	学士(文学) 【Bachelor of Arts】	令和5年4月 1年次	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番1号
計		90	—	360			

同一設置者内における変更状況（定員の移行，名称の変更等）	人間科学部 児童・幼児教育学科　（　100）（令和4年3月認可申請） 人間発達学科（廃止） 人間発達学専攻　（△130） 人間基礎学専攻　（△ 60） （3年次編入学定員）　（△ 40） ※令和5年4月学生募集停止（3年次編入学定員は令和7年4月学生募集停止） 家政学部 生活デザイン学科　（　60）（令和4年4月届出予定） 人間生活学科（廃止）（△ 40） ※令和5年4月学生募集停止

教育課程

新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数
	講義	演習	実験・実習	計	
人間科学部 心理・文化学科	108　科目	97　科目	22　科目	227　科目	124　単位

教員組織の概要

	学部等の名称	専任教員等 教授	准教授	講師	助教	計	助手	兼任教員等	
新設分	人間科学部　心理・文化学科	6 人 (6)	3 人 (3)	2 人 (1)	0 人 (0)	11 人 (10)	0 人 (0)	69 人 (45)	
新設分	児童・幼児教育学科	9 (9)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	17 (17)	0 (0)	73 (44)	令和4年3月認可申請
新設分	家政学部　生活デザイン学科	5 (5)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	7 (7)	1 (1)	77 (41)	令和4年4月届出予定
新設分	計	20 (20)	8 (8)	7 (6)	0 (0)	35 (34)	1 (1)	— (—)	
既設分	家政学部　栄養学科	7 (7)	3 (3)	3 (3)	0 (0)	13 (13)	5 (5)	65 (47)	
既設分	共通教育センター	1 (1)	1 (1)	1 (0)	0 (0)	3 (2)	0 (0)	— (—)	
既設分	計	8 (8)	4 (4)	4 (3)	0 (0)	16 (15)	5 (5)	— (—)	
合計		28 (28)	12 (12)	11 (9)	0 (0)	51 (49)	6 (6)	— (—)	

教員以外の職員の概要	職種	専任	兼任	計	
	事務職員	25 人 (25)	3 人 (3)	28 人 (28)	
	技術職員	0 (0)	1 (1)	1 (1)	
	図書館専門職員	1 (1)	0 (0)	1 (1)	
	その他の職員	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
	計	26 (26)	4 (4)	30 (30)	

校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	校舎敷地	— ㎡	35,938.40 ㎡	— ㎡	35,938.40 ㎡	九州女子短期大学と共用
	運動場用地	— ㎡	13,551.27 ㎡	— ㎡	13,551.27 ㎡	
	小計	— ㎡	49,489.67 ㎡	— ㎡	49,489.67 ㎡	
	その他	— ㎡	62,035.77 ㎡	— ㎡	62,035.77 ㎡	
	合計	— ㎡	111,525.44 ㎡	— ㎡	111,525.44 ㎡	

校舎	専用	共用	共用する他の学校等の専用	計	
	— ㎡ (— ㎡)	34,308.93 ㎡ (34,308.93 ㎡)	— ㎡ (— ㎡)	34,308.93 ㎡ (34,308.93 ㎡)	九州女子短期大学と共用

教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	
	41 室	46 室	18 室	5 室 (補助職員 1 人)	— 室 (補助職員 — 人)	大学全体

専任教員研究室	新設学部等の名称	室数	
	人間科学部 心理・文化学科	11 室	

図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	人間科学部 心理・文化学科	216,560〔28,746〕 (200,328〔28,706〕)	154〔—〕 (154〔—〕)	4〔 4 〕 (4 〔 4 〕)	4,596 (4,556)	— (—)	— (—)	大学全体 学部学科単位での特定不能なため、大学全体の数
	計	216,560〔28,746〕 (200,328〔28,706〕)	154〔—〕 (154〔—〕)	4〔 4 〕 (4 〔 4 〕)	4,596 (4,556)	— (—)	— (—)	

図書館	面積	閲覧座席数	収納可能冊数	
	2,893.77 ㎡	380	205,000	大学全体

体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要		
	4,435.02 ㎡	テニスコート5面	ソフトボール場	大学全体

経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次	
経費の見積り	教員１人当り研究費等		300 千円	300 千円	300 千円	300 千円	—	—	図書費には電子ジャーナル、データベース、その他の経費（運用コストを含む。）を含む。
	共同研究費等		—	—	—	—	—	—	
	図書購入費	0 千円	50 千円	0 千円	0 千円	0 千円	—	—	
	設備購入費	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	0 千円	—	—	

学生１人当り納付金	第１年次	第２年次	第３年次	第４年次	第５年次	第６年次
	1,200千円	940千円	940千円	940千円	— 千円	— 千円

学生納付金以外の維持方法の概要	私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等

既設大学等の状況	大学の名称	九州女子大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次 人	人		倍			
	家政学部						1.01		福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番1号	
	人間生活学科	4	40	—	160	学士(家政学)	1.05	平成13年度		
	栄養学科	4	90	—	360	学士(家政学)	1.04	平成13年度		
	人間科学部						1.08			
	人間発達学科 人間発達学専攻	4	130	—	520	学士(文学)	0.92	平成22年度		
	人間発達学科 人間基礎学専攻	4	60	3年次 40	320	学士(文学)	1.42	平成22年度		

既設大学等の状況	大学の名称	九州女子短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	子ども健康学科	2	150	—	300	短期大学士（教育学）	0.90	平成23年度	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番1号	
	大学の名称	九州共立大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	経済学部 経済・経営学科	4	350	—	1,300	学士（経済学）	1.14 1.26	平成21年度	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番8号	令和元年度入学定員減（△100人） 令和3年度入学定員増（50人） 令和3年度入学定員減（△20人）
	地域創造学科	4	80	—	360	学士（経済学）	0.74	平成31年度		
	スポーツ学部 スポーツ学科	4	250	—	1,000	学士（スポーツ学）	1.14 1.14	平成19年度		
	大学の名称	九州共立大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	経済・経営学研究科 経済・経営学専攻	2	5	—	10	修士（経済学）	2.60 2.60	令和4年度	福岡県北九州市八幡西区自由ケ丘1番8号	令和4年4月開設
	スポーツ研究科 スポーツ学専攻	2	5	—	10	修士（スポーツ学）	1.10 1.10	平成30年度		
附属施設の概要	該当なし									

学校法人福原学園　設置認可等に関わる組織の移行表

令和４年度　→　令和５年度

令和４年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和５年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
九州女子大学				九州女子大学				
家政学部				家政学部				
人間生活学科	40	－	160	生活デザイン学科	60	－	240	学科の設置（届出）
栄養学科	90	－	360	栄養学科	90	－	360	
人間科学部				人間科学部				
人間発達学科				児童・幼児教育学科	100	－	400	学科の設置（認可申請）
人間発達学専攻	130	－	520	心理・文化学科	90	－	360	学科の設置（届出）
人間基礎学専攻	60	3年次 40	320					
計	320	40	1,360	計	340	－	1,360	
九州女子短期大学				九州女子短期大学				
子ども健康学科	150	－	300	子ども健康学科	150	－	300	
計	150	－	300	計	150	－	300	
九州共立大学				九州共立大学				
経済学部				経済学部				
経済・経営学科	350	－	1,400	経済・経営学科	350	－	1,400	
地域創造学科	80	－	320	地域創造学科	80	－	320	
スポーツ学部				スポーツ学部				
スポーツ学科	250	－	1,000	スポーツ学科	250	－	1,000	
計	680	－	2,720	計	680	－	2,720	
九州共立大学大学院				九州共立大学大学院				
経済・経営学研究科				経済・経営学研究科				
経済・経営学専攻（Ｍ）	5	－	10	経済・経営学専攻（Ｍ）	5	－	10	
スポーツ学研究科				スポーツ学研究科				
スポーツ学専攻（Ｍ）	5	－	10	スポーツ学専攻（Ｍ）	5	－	10	
計	10	－	20	計	10	－	20	

※ 九州女子大学人間科学部人間発達学科は、
専攻ごとに教職課程が異なる。

別記様式第２号・別添１

（用紙　日本産業規格A4縦型）

設置の前後における学位等及び専任教員の所属の状況

届出時における状況						新設学部等の学年進行終了時における状況					
学部等の名称	授与する学位等		異動先	専任教員		学部等の名称	授与する学位等		異動元	専任教員	
	学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授		学位又は称号	学位又は学科の分野		助教以上	うち教授
人間科学部 人間発達学科 人間基礎学専攻 （廃止）	学士 （文学）	文学関係	人間科学部心理・文化学科	10	4	人間科学部 心理・文化学科	学士 （文学）	文学関係	人間科学部人間発達学科人間基礎学専攻	10	6
			退職	2	2				新規採用	1	0
			計	12	6				計	11	6
人間科学部 人間発達学科 人間発達学専攻 （廃止）	学士 （文学）	文学関係	人間科学部児童・幼児教育学科	17	7						
			退職	1	0						
			計	18	7						

別記様式第２号・別添２

（用紙　日本産業規格A4縦型）

基　礎　と　な　る　学　部　等　の　改　編　状　況

開設又は改編時期	改　編　内　容　等	学　位　又　は　学　科　の　分　野	手続きの区分
昭和40年4月	文学部国文学科　設置	文学	設置認可（学部）
昭和40年4月	文学部英文学科　設置	文学	
平成13年4月	文学部人間文化学科　設置	文学	設置届出（学科）
平成13年4月	文学部心理社会学科　設置	文学	
平成13年4月	文学部国文学科の学生募集停止	－	学生募集停止（学科）
平成13年4月	文学部英文学科の学生募集停止	－	
平成17年4月	人間科学部人間文化学科　設置	文学	設置届出（学部）
平成17年4月	人間科学部人間発達学科　設置	文学	
平成17年4月	文学部人間文化学科の学生募集停止	－	学生募集停止（学部）
平成17年4月	文学部心理社会学科の学生募集停止	－	
平成22年4月	人間科学部人間発達学科　設置	文学	設置届出（学科）
平成22年4月	人間科学部人間文化学科の学生募集停止	－	学生募集停止（学科）
平成22年4月	人間科学部人間発達学科の学生募集停止	－	
令和5年4月	人間科学部心理・文化学科　設置	文学	認可又は届出
令和5年4月	人間科学部児童・幼児教育学科　設置	教育学	設置認可（学科）

別記様式第２号（その２の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

教　育　課　程　等　の　概　要

（人間科学部心理・文化学科）

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
総合共通科目	教養教育科目	文化・芸術領域	ことばと日本文化	1・2前・後		2		○								兼2	共同
			ことばと異文化	1・2前・後		2		○								兼3	共同
			情報文化論	1・2前・後		2		○			1						
			スポーツの文化	1・2前・後		2		○								兼1	
		歴史・社会領域	歴史と国際情勢	1・2前・後		2		○								兼1	
			現代国家と法（日本国憲法）	1・2前・後		2		○								兼1	
			暮らしと経済	1・2前・後		2		○								兼1	
			人権・同和教育	1・2前・後		2		○								兼1	
		人間・環境領域	人間と哲学	1・2前・後		2		○								兼1	
			生命と地球	1・2前・後		2		○								兼1	
			心の科学	1・2前・後		2		○								兼1	
			共生社会を生きる	1・2前・後		2		○								兼1	
	言語・異文化理解科目		日本語表現法Ⅰ	1前・後	1				○							兼2	
			日本語表現法Ⅱ	2前・後	1				○		1					兼1	
			伝わる文章力	2前・後		1			○			1					
			英語Ⅰ	1前	1				○							兼3	
			英語Ⅱ	1後	1				○							兼3	
			英語コミュニケーションⅠ	2前	1				○							兼2	
			英語コミュニケーションⅡ	2後	1				○							兼2	
			ＴＯＥＩＣ入門	1前・後		1			○							兼2	
			フランス語Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
			フランス語Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
			中国語Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
			中国語Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
			韓国語Ⅰ	1・2前		1			○							兼1	
			韓国語Ⅱ	1・2後		1			○							兼1	
			イングリッシュワークショップ	1・2前・後		1			○							兼3	共同
			海外研修	1・2・3・4前・後		2				○						兼1	
	情報教育科目		情報処理演習Ⅰ	1前	1				○		1					兼2	
			情報処理演習Ⅱ	1後	1				○		1					兼2	
			情報処理演習Ⅲ	2前		1			○							兼1	
			情報処理演習Ⅳ	2後		1			○							兼1	
			情報科学概論	1前		2		○			1						
			データサイエンス	1後		2		○			1						
			アルゴリズムとプログラミング	2前		2		○			1						
			ICT活用法	2後		2		○			1						
			情報処理技術	3前		2		○			1						
	健康教育科目		スポーツ	1前・後		1				○						兼3	
			健康の科学	1前・後		2		○								兼1	
	キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	キャリア基礎演習Ⅰ	1前・後	1				○		1	2					
			キャリア基礎演習Ⅱ	2前・後	1				○		3						
			キャリア基礎演習Ⅲ	3前・後	1				○		1	1	2				
			キャリアデザインⅠ	1前	1				○			1				兼2	
			キャリアデザインⅡ	3前		1			○							兼1	
			キャリアデザインⅢ	3後		1			○							兼1	
			インターンシップⅠ	1・2・3・4前・後		2				○						兼2	共同
			インターンシップⅡ	1・2・3・4前・後		2				○						兼1	
		キャリア発展領域	スキルアップ講座Ｂ	2前		1			○							兼1	
			スキルアップ講座Ｃ	2後		1			○							兼1	
			スキルアップ講座Ｄ	3前		1			○		1	1					共同
			スキルアップ講座Ｅ	3後		1			○		1	1					共同
			スキルアップ講座Ｒ	3・4前		1			○							兼1	
			スキルアップ講座Ｓ	3・4後		1			○							兼1	
	小計（53科目）			―	12	62	0	―			5	3	2	0	0	兼32	

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	学部共通科目		人間科学概論	1前	2			○			5						
			心理学概論	1前		2		○					1				
			発達心理学	1前		2		○					1				
			学習・言語心理学	1後		2		○			1						
			コミュニケーション概論	2後		2		○			1						
			社会調査法	2前		2		○								兼1	
			教育・学校心理学	2後		2		○			1						
	コース科目	心理学コース	社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会・集団心理学）	1後		2		○								兼1	
			健康・医療心理学	1後		2		○					1				
			知覚・認知心理学Ⅰ（知覚心理学）	1前		2		○								兼1	
			臨床心理学概論	1後		2		○					1				
			知覚・認知心理学Ⅱ（認知心理学）	2前		2		○			1						
			心理学研究法	2前		2		○					1				
			心理学的支援法	2後		2		○			1						
			心理学統計法Ⅰ	2前		2			○		1						
			心理学統計法Ⅱ	2後		2			○							兼1	
			心理学実験Ⅰ	2前		2				○	1					兼1	共同
			心理学実験Ⅱ	2後		2				○			1			兼1	共同
			心理的アセスメント	2前		2			○		1						
			神経・生理心理学	3前		2		○								兼1	
			社会・集団・家族心理学Ⅱ（家族心理学）	3前		2		○			1						
			心理演習	3前		2			○		1					兼1	共同
			精神疾患とその治療	2前		2		○								兼1	
			障害者・障害児心理学	2後		2		○					1				
			人体の構造と機能及び疾病	3後		2		○								兼1	
			感情・人格心理学	1後		2		○			1						
			福祉心理学	2後		2		○								兼1	
			産業・組織心理学	2後		2		○			1						
			司法・犯罪心理学	3後		2		○					1				
			公認心理師の職責	4前		2		○			1		1			兼1	共同
			関係行政論	3後		2		○			1		1			兼1	共同
			心理実習	2・3・4通		2				○	2		1				共同
		国語・書道教育コース	日本語学概論（音声言語を含む。）	1前		2		○				1					
			日本古典文学史	1前		2		○								兼1	
			楷書法Ⅰ	1前		1				○						兼1	
			楷書法Ⅱ	2前		1				○		1					
			行草書法Ⅰ	1後		1				○		1					
			行草書法Ⅱ	2後		1				○		1					
			日本語文法	2前		2		○				1					
			日本近現代文学史	1後		2		○			1						
			書写書道Ⅰ	2前		1				○						兼1	
			書写書道Ⅱ	2後		1				○		1					
			日本語史概論	1後		2		○				1					
			日本古典文学	2前		2		○								兼1	
			日本古典文学演習	2後		2			○			1					
			漢文学Ⅰ	3前		2		○								兼1	
			漢文学Ⅱ	3後		2		○								兼1	
			中国書道史	3前		2		○				1					
			日本書道史	3後		2		○				1					
			書論	3前		2		○				1					
			鑑賞	3後		2		○								兼1	
			篆隷書法Ⅰ	3前		1				○		1					
			篆隷書法Ⅱ	4前		1				○		1					
			仮名書法Ⅰ	3前		1				○		1					
			仮名書法Ⅱ	4後		1				○						兼1	
			漢字仮名交じり書法Ⅰ	3前		1				○						兼1	
			漢字仮名交じり書法Ⅱ	4後		1				○						兼1	
			教職概論	1前		2		○								兼1	
			教育原論	1後		2		○								兼1	
			教育心理学	1後		2		○			1						

科目区分			授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	コース科目	国語・書道教育コース	生徒・教育相談論（中等）	3前		2		○			1						
			日本語学演習Ⅰ	3前		2			○			1					
			日本語学演習Ⅱ	3後		2			○			1					
			日本近現代文学演習	2後		2			○		1						
			国語科教材分析	2前		2		○			1						
			コース実践演習Ⅰ	3前		2			○		1	1					共同
			コース実践演習Ⅱ	3後		2			○		1	1					共同
			コース実践演習Ⅲ	4前		2			○		1						
		文化文芸コース	文化文芸概論	1前		2		○			1	2					共同
			日本文学概論	1後		2		○			1						
			日本近現代文学	2前		2		○					1				
			日本語の歴史	2前		2		○				1					
			日本語の古典	2後		2		○								兼1	
			文章表現	3前		2		○			1						
			ビジュアル文化論	3後		2		○					1				
			メディアと現代文化	2前		2		○					1				
			生活の中の書	1後		2		○								兼1	
			デジタル書道	2後		2		○			1	1					共同
			書文化研究	3前		2		○								兼1	
			水墨画演習	3前		1			○							兼1	
			文化文芸インターンシップ	2・3・4通		1				○	1	2	1				共同
			商品プランナー実務論	3前		2		○								兼1	
	ゼミナール科目		ゼミナールⅠ	2前	1				○		1	1	1				
			ゼミナールⅡ	2後	1				○		3						
			ゼミナールⅢ	3前	1				○		1	1	2				
			ゼミナールⅣ	3後	1				○		1	2					
			キャリア発展ゼミナール	4通	2				○		6	3	2				
	教職に関する専門教育科目		教育行政学	3前			2	○								兼1	
			特別支援教育論	3前			2	○								兼1	
			教育課程論（中等）	2前			2	○								兼1	
			国語科教育法Ⅰ	1後			2	○			1						
			国語科教育法Ⅱ	2前			2	○			1						
			国語科教育法Ⅲ	2後			2	○			1						
			国語科教育法Ⅳ	3前			2	○			1						
			書道科教育法Ⅰ	2後			2	○				1					
			書道科教育法Ⅱ	3前			2	○				1					
			道徳教育指導法（中等）	3前			2	○								兼1	
			特別活動・総合的な学習の時間指導法	2後			2	○								兼1	
			教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）	3後			2	○								兼1	
			生徒・進路指導（中等）	3後			2	○			1						
			中等教育実習事前事後指導	3通			1	○			1	2					共同
			中等教育実習Ⅰ	3通			2			○	1						
			中等教育実習Ⅱ	3通			2			○	1						
			教職実践演習（中等）	4後			2		○		1	1				兼1	共同
	小計（104科目）			―	8	148	33	―			6	3	2	0	0	兼22	
自由選択科目	図書館司書課程科目		図書館概論	1前		2		○				1					
			生涯学習概論	1後		2		○								兼1	
			情報資源組織論	2前		2		○				1					
			情報資源組織演習Ⅰ	2後		1			○			1					
			情報資源組織演習Ⅱ	3前		1			○			1					
			情報サービス論	2後		2		○				1					
			情報サービス演習Ⅰ	3前		1			○			1					
			情報サービス演習Ⅱ	3後		1			○			1					
			児童サービス論	3前		2		○								兼1	
			図書館情報技術論	2前		2		○			1						
			図書館情報資源概論	1後		2		○				1					
			図書館サービス概論	2前		2		○				1					
			図書館制度・経営論	3後		2		○				1					
			図書館サービス特論・図書館情報資源特論	4後		2		○				1					
			図書及び図書館史・図書館基礎特論	4後		2		○								兼1	

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数 必修	単位数 選択	単位数 自由	授業形態 講義	授業形態 演習	授業形態 実験・実習	専任教員等の配置 教授	専任教員等の配置 准教授	専任教員等の配置 講師	専任教員等の配置 助教	専任教員等の配置 助手	備考	
自由選択科目	学校図書館司書教諭課程科目	学校経営と学校図書館	3前		2		○								兼1	
		学校図書館メディアの構成	3後		2		○			1						
		情報メディアの活用	4前		2		○			1						
		学習指導と学校図書館	4後		2		○								兼1	
		読書と豊かな人間性	4後		2		○								兼1	
	K－CIP科目	公務員試験概論	1前・後		1			○							兼1	
		数的処理Ⅰ	1後		1			○							兼1	
		社会科学Ⅰ	1後		1			○							兼1	
		文章理解	2後		1			○				1				
		数的処理Ⅱ	2前		1			○							兼1	
		数的処理Ⅲ	2後		1			○							兼1	
		社会科学Ⅱ	2前		1			○							兼1	
		人文科学	2後		1			○							兼1	
		自然科学	2前		1			○							兼1	
		憲法演習	2前		1			○							兼1	
		行政法演習	2後		1			○							兼1	
		民法（総則、物権）演習	2前		1			○							兼1	
		民法（債権、親族・相続）演習	2後		1			○							兼1	
		ミクロ経済学演習	2前		1			○							兼1	
		マクロ経済学演習	2後		1			○							兼1	
		法律科目演習Ⅰ	3前		1			○							兼1	
		法律科目演習Ⅱ	3後		1			○							兼1	
		経済科目演習Ⅰ	3前		1			○							兼1	
		経済科目演習Ⅱ	3後		1			○							兼1	
		行政科目演習Ⅰ	3前		1			○							兼1	
		行政科目演習Ⅱ	3後		1			○							兼1	
		会計学演習	3前		1			○							兼1	
		専門科目記述式演習	3後		1			○							兼2	共同
		公務員試験直前対策Ⅰ（教養）	3前		1			○							兼1	
		文章理解演習	3前		1			○				1				
		人文科学演習	3前		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅱ（教養）	3後		1			○							兼1	
		社会科学演習	3後		1			○							兼1	
		自然科学演習	3後		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅰ（SPI）	3前		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅱ（SPI）	3後		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅲ（教養）	4前		1			○							兼1	
		公務員試験直前対策Ⅲ（SPI）	4前		1			○							兼1	
		公務員人物試験対策	4前・後		1			○							兼1	
	小計（54科目）		－	0	70	0	－			1	1	1	0	0	兼9	
留学生特別科目		初級日本語ⅠA	1前・後		2			○							兼2	
		初級日本語ⅡA	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅠB	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅡB	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅠC	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅡC	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅠD	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅡD	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅠE	1前・後		2			○							兼1	
		初級日本語ⅡE	1前・後		2			○							兼1	
		日本語講座Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		日本語講座Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		日本事情Ⅰ	1前		2		○								兼1	
		日本事情Ⅱ	1後		2		○								兼1	
		比較文化Ⅰ	2前		2		○								兼1	
		比較文化Ⅱ	2後		2		○								兼1	
		小計（16科目）	－	0	32	0	－			0	0	0	0	0	兼8	
合計（227科目）			－	20	312	33	－			6	3	2	0	0	兼69	

学位又は称号	学士（文学）	学位又は学科の分野	文学関係

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
総合共通科目30単位以上、専門教育科目76単位以上、自由選択科目18単位以上の合計124単位以上を修得すること。なお、自由選択科目には、自学科で単位修得した科目のうち卒業に要する単位数を超える科目、及び、自学部他学科もしくは他学部で単位修得した科目を含む。	１学年の学期区分	2期
	１学期の授業期間	15週
	１時限の授業時間	90分

別記様式第２号（その３の１）

（用紙　日本産業規格Ａ４縦型）

授　業　科　目　の　概　要

（人間科学部心理・文化学科）

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	教養教育科目	文化・芸術領域	ことばと日本文化	本授業科目は、グローバル化された現代日本社会を生きるために必要な「ことば教育」について学ぶ。 授業は3名の担当教員がリレー形式で行う。また、著名な外部講師による講演を1回行うため、必ず出席する。 担当教員と外部講師のそれぞれの専門分野における、日本の文化や文学を中心とした授業を通して、「ことば」の意義について考える。	共同
			ことばと異文化	本授業科目は異文化に関する諸分野（外国語・文化・文学・芸術など）について学ぶことで、異文化の多様性とそれぞれの歴史や現状についての知識と理解を深め、他者を理解する広い視野・態度・志向性を涵養し、併せて日本のことばと文化を相対化して捉え直す視点を涵養することを目的としている。「異文化」の範囲は限定されないため、授業では洋の東西を問わず外国の文化文学領域を専門にした複数の教員によるリレー方式を採用し、複数の国・地域のことばと文化を具体的に教授する。	共同
			情報文化論	社会のさまざまな場面で使われるようになった情報技術や人工知能(AI)、気づかないうちに私たちの社会や生活に深く入り込んでいて、多くの恩恵がもたらされるとともに、さまざまな課題も発生している。まず情報について総合的に着目することで、情報とは何か、また、情報技術が進むことで情報に対する対応の仕方の変化について考え、情報の役割について考察する。次に、5つの時代の試行錯誤を経て、AIが見せる次の時代の模様を展望すると同時に、なぜAIは人類への脅威であると言われているのかについて説明し、さらに、AIの誕生から未来まで順を追って、ロボット、技術、人間社会との関わりなど多方面から解説する。	
			スポーツの文化	2013年にTOKYO2020が決定して以降、スポーツの気運が高まったと言える。2011年に改正されたスポーツ基本法の前文では文化としてのスポーツも強調されている。しかし一方では、ハラスメントの問題などがメディアなどで取り上げられるようになり、その影響が社会を賑わせてもいる。改めて、スポーツは人間と社会にとってどのような意味を持つのか、理解を深めていくことが問われている。本授業科目では、スポーツの概念や歴史を踏まえ、現代におけるスポーツの捉え方（フェアプレイやスポーツマンシップなど）を学ぶ。	
		歴史・社会領域	歴史と国際情勢	政治と国際問題を理解するために、国家とは何か、また、それはどのような政治的営みを行うか、国家以外にはどのような国際関係の主体があるかを明らかにする。また、国際政治に対する主要な理論（リアリズム、リベラリズムなど）に触れ、それらの理論の出現に大きな影響を与えた第一次世界大戦などの歴史について学習する。現代の国際的な課題についても学習する。その結果、政治と国際問題に対する基礎的知識と能動的な思考能力を身に付けることを目指す。	
			現代国家と法（日本国憲法）	「憲法とは何か」「現代社会において憲法はどのような重要性を持つのか」「人権にはいかなるものがあるのか」「国家のあり方に関する基本原理やルールとは」― こうした基本的問題について解説する。全体の構成としては、まず憲法とは何かについて概説した後、前半部では人権に関する項目、後半部では統治機構に関する項目を主題として講義を行う。	
			暮らしと経済	人口・雇用・家族・租税・社会保障の5つの切り口から、生活と経済の関係を学び、同時に、総人口の半分を占める女性の活躍が、従来にも増して必要とされる理由と、これからの社会経済に、どのような影響力を持つのか、について考える。	
			人権・同和教育	私たちが生きていくうえで[人権]は重要な概念となる。本授業科目では[人権]とは何か、[人権]を学ぶことで何が得られ、何を行い、何をすべきではないかを学んでいく。また人権の歴史と現状を学ぶことで、[人権]の主体として行動することを通じて、差別や偏見にさらされている人々の痛みを共感できる「人間力」の育成を目的とする。私たちの社会にはさまざまな偏見や差別が存在する。この差別や偏見の意味を知ることで、個人としてより良く生き、他者への尊厳をもち、多様性を認め合える社会の一員としての教養を身に付けてほしい。	
		人間・環境領域	人間と哲学	先が不安だといわれる現代社会においては、自分らしく生きていくためにはどうすればよいのだろうか。現実と理想のはざまで、私が私らしくあるためにはどうすればよいのだろうか。本授業科目では、「この私」への問いを投げかける哲学を学びながら、自分で自分を見つめ、現代社会で生きる「私」のあり方を深く考える力を身に付ける。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	教養教育科目	人間・環境領域	生命と地球	本授業科目であなたは地球の壮大な歴史を学ぶことができる。なぜ哺乳類はお母さんのお腹の中から生まれるようになったのか。なぜ人類は2足歩行を始めたのか？北米大陸の先住民と日本人の容姿が似ているのはなぜか？70億人を超える人類は、たった35人の母親から始まったことはあまり知られていない。日本人に限っては、たった9人の母親から1億2000万人に増加した。最新の研究によって明らかにされた46億年にわたる地球の歴史と生物の進化を学ぶ。	
			心の科学	本授業科目では、私達の心についてさまざまな観点からの知見を紹介する。心は直接見ることも触れることもできないが、これまでそれを知るために多くの工夫がなされ現象が解明されてきた。そのような心を知るための方法から、曖昧であるからこそ生じた問題、どのようなことが明らかになってきたのかを解説する。感覚・知覚・記憶といった基礎的な領域から社会、発達、臨床のような応用まで幅広く扱う。	
			共生社会を生きる	本授業科目では、共生社会をみんなでどのように作っていくのか、という点について現実の諸問題を知ることから考えていく。エスニシティ、ナショナリティ、ジェンダー、障害など人間のアイデンティティに関わるキーワードを押さえつつ、主にマイノリティが直面している状況について、歴史的背景を学びながら日本の現状を他国との事情比較も絡めて理解する。マジョリティ中心にさまざまな制度が設計されがちであることに意識を向けて、社会における「公平」とはどういうことなのかを考察し、今後の共生社会の可能性について検討することを目的とする。	
	言語・異文化理解科目		日本語表現法Ⅰ	大学生になると、自分の考えを文章で表現する機会が増える。試験で自分の考えを述べる問題に解答したり、レポートを作成したりする。そのため、日本語表現の基礎となる語彙や文法、表記に関する知識を身に付ける必要がある。また、社会では状況に応じた表現能力が必須となる。本授業科目では、レポートの作成を中心に、これらの知識・技能の習得を目指す。毎回の授業では、授業内容を踏まえたワークシートに取り組み、知識の定着を図る。	
			日本語表現法Ⅱ	本授業科目では、書くこと・話すことに関する、より実践的な日本語運用能力の習得を目指す。資料の検索の仕方、レジュメの作り方、プレゼンテーションの行い方など、大学生活で必要とされる技術について学ぶ。さらに、小論文やエントリーシートの書き方といった就職活動で求められるスキルを身に付け、敬語でコミュニケーションする力など、日本語運用に関する社会人基礎力を養う。	
			伝わる文章力	本授業科目では、文章検定準2級レベルの文章力を身に付けることを目的とする。文章検定準2級のレベルは「実社会での有効なコミュニケーションを実現するために必要な文章読解力及び文章作成力」とされている。授業では、文章検定準2級の合格を目指して問題演習を行っていく。問題演習を通して、語彙力や文法に関する知識を身に付けるとともに、説得力のある文章の作成力を向上させる。同時に漢字検定2級レベルの漢字力も身に付けることを目的としている。	
			英語Ⅰ	大学では就職試験やTOEICなどに対応できる英語力が求められるが、このような内容にチャレンジするためには、今までの学力を土台とした更なる基礎固めが必要不可欠である。本授業科目では、文法項目を復習しながら、英文を4技能を通してバランスよく学習し、シンプルな英文を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりすることができる実践的運用能力を養う。	
			英語Ⅱ	就職試験やTOEICなどに対応できる英語力を習得するために、「英語Ⅰ」と同様に、更なる基礎固めを引き続き行う。本授業科目では、学習した文法項目から成る英文を4技能を通してバランスよく学習しながら、複雑な英文を読んだり、聞いたり、話したり、書いたりすることができる実践的運用能力を養う。	
			英語コミュニケーションⅠ	本授業科目では、「英語Ⅰ・Ⅱ」で固めた基礎力を土台にして、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しながら、リスニングスキルとスピーキングスキルを高めることを目指す。これらのスキルの強化によって、資格のための英語スキルアップ講座の学びへと繋がることも目指す。	
			英語コミュニケーションⅡ	本授業科目では、「英語コミュニケーションⅠ」から継続して、日常的に使われる英文や英語表現を、語学学習における4技能を通してバランスよく学習しながら、リスニングスキルとスピーキングスキルをさらに高めることを目指す。これらのスキルの強化によって、資格のための英語スキルアップ講座の学びへと繋がることも目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	言語・異文化理解科目	ＴＯＥＩＣ入門	TOEIC形式のテストに必要な基礎的な英語力の習熟を目標にTOEIC受験対策学習を実践的に行う。リスニング問題ではPart 1（写真描写）とPart 2（応答）の表現と回答の方法に馴れることに、リーディング問題では Part 5に必要な基本的な文法事項の復習に学習の重点を置き、学内及び学外のTOEICテストで350-400点に到達することを成果目標とする。	
		フランス語Ⅰ	フランス語をゼロから学ぶ。基礎的な文法習得と正しい発音による口頭練習を重視する。具体的には、前週に文法プリントを渡して宿題とし、翌週の授業冒頭に確認の小テストを行う。次いで、ペアによる会話練習、DVDを使った学習、練習問題による文法事項のより深い理解へと続く。DVDを使った学習としては、フランス語版「TOTORO」を使ってきまり文句を覚えたり、フランス旅行のビデオを見て異文化を理解したりする。	
		フランス語Ⅱ	「フランス語Ⅰ」の学習を継続する。「フランス語Ⅰ」と同様、基礎的な文法習得と正しい発音による口頭練習を重視する。具体的には、前週に文法プリントを渡して宿題とし、翌週の授業冒頭に確認の小テストを行う。次いで、ペアによる会話練習、DVDを使った学習、練習問題による文法事項のより深い理解へと続く。DVDを使った学習としては、フランス語版「TOTORO」を使ってきまり文句を覚えたり、フランス旅行のビデオを見て異文化を理解したりする。	
		中国語Ⅰ	本授業科目は、初心者向きの入門である。短い会話文（8文字以内）の教科書を使用する。人気漫才コンビによる中国語発音のビデオを活用し、中国語学びの楽しさを求める。前期の中国語Ⅰは、中国語漢字の発音符号である拼音（ピンイン）の習いをはじめ、初対面の挨拶、自己紹介、数字、日付などを学ぶ。また、「麻婆豆腐」など中華料理についての解釈は授業内容の一部分である。この中国語授業の最終目標は「中国語で中華料理の注文ができる」ことである。	
		中国語Ⅱ	本授業科目は、「中国語Ⅰ」を習った者を対象とする。「中国語Ⅰ」に引き続き会話中心のスタイルを堅持しながら書き能力にも力を入れる。最終目標の「中国語で中華料理の注文ができる」を実現させるため、中国語による中華料理メニューの学びに重点を置く。メニューについての解釈はもちろん、調理法、味付けに関する中国語の表現も多く学ぶ。実用と実践の内容として「直接注文」と「間接注文」などの注文するための基本文型を覚えてもらう。	
		韓国語Ⅰ	初めて韓国語を学ぶ学生向けの韓国語の初級入門クラスである。初級でつまずきやすい発音と文字をしっかりと練習しながら、文章・会話表現の基礎を固めていく。できる限りペア・グループワークを取り入れ、「聞いて話す」ことに重点を置きつつ、「読む」「書く」力の習得も目指す。また、画像・映像や実物などの資料を用いて韓国の文化、慣習、歴史なども適宜紹介し、文化・異なる価値観に触れるようにする。	
		韓国語Ⅱ	本授業科目では「韓国語Ⅰ」で学習した表現などを活かし、初級でつまずきやすい発音をしっかりと練習しながら、文章・会話表現の基礎を固めていく。できる限りペア・グループワークを取り入れ、「聞いて話す」ことに重点を置きつつ、「読む」「書く」力の習得も目指す。また、画像・映像や実物などの資料を用いて韓国の文化、慣習、歴史なども適宜紹介し、文化・異なる価値観に触れるようにする。	
		イングリッシュワークショップ	英語でのコミュニケーション能力は将来のグローバル人材に必要なスキルの1つである。本科目では、留学を希望する学生、小学校教員採用試験受験を目指す学生、広い範囲で英語力を必要とするキャリア志向の学生などを対象として、英語のみでコミュニケーションを取り、英語のみで表現する活動を体験することで、個々人の現在の語学スキルを把握・向上させ、同時に、学習者の自発的な英語学習の動機付けになることを目指す。ネイティブスピーカーを中心としてさまざまなアクティビティを行い、学生自身が英語でアウトプットを積極的に行う授業を展開する。	共同
		海外研修	本授業科目は、本学の海外協定校が提供する外国語研修プログラムに応募し、本学で実施する事前研修を受講のうえ、90時間以上の外国語研修プログラムの受講を完了した場合、所定の手続きを経て2単位が与えられる科目である。	
	情報教育科目	情報処理演習Ⅰ	コンピュータを操作するために必要な基本知識と技術について演習を通じて学習する。ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの基本操作を演習し、わかりやすい資料を作り、人に伝えるための手法について習得する。さらに、電子メールの仕組みや操作、インターネットやWeb検索について学習すると同時に情報倫理について学び、情報社会のモラルを身に付ける。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	情報教育科目		情報処理演習Ⅱ	近年、データサイエンスが注目されている。さまざまなデータを対象として、データの収集・加工・処理、データの分析とその活用を目的として、基本知識と基本技術を学習する。主に表計算ソフトを使用するが、適宜他の題材も用いる。具体的なデータを用いて、データ活用と必要なスキルについて演習する。	
			情報処理演習Ⅲ	デジタルトランスフォーメーション（DX）に向けて、社会人として必要なスキルの1つとしてはデータ分析能力である。データベースの概要について理解するとともに、データの基本的な概念や分類、多様なデータの適切な管理・活用技能について学習・演習する。また、ビッグデータ解析の一手法としての時系列分析の基本的な各種分析手法を取り上げ、データ処理の考え方と手法について実践する。	
			情報処理演習Ⅳ	コンピュータを利用するための基本知識と基本技術を、プログラミング演習を通じて学習する。プログラミング言語を用いて、プログラミングとはどのようなものであるかを学習し、実際のプログラム作成の演習を通じて、プログラミングの基礎やアルゴリズムに対する基礎的な理解を深め、問題を解決するための考え方を学ぶ。	
			情報科学概論	情報の基礎概念とコンピュータの基本的仕組みについて学習する。デジタルとアナログの違いやハードウェアとソフトウェアさらにオペレーティングシステムの概念について理解し、さまざまな活用法についての知識を習得する。LAN やインターネット、通信技術の基礎的理解からWWW や電子メールによる実際的活用について学習し、コンピュータの動作原理を理解し、情報科学の基礎的理解を深める。	
			データサイエンス	得られたデータをどのように処理するのか、また、そこからどのような解釈が可能となるのかを体系的に理解する必要がある。さまざまなデータから科学的な知見を得るためには、統計学的な手法を用いてデータ処理を行うのが一般的である。まず基本的な統計学の知識について学習する。次に具体的なデータを用いて実践的な統計処理や分析の仕方について学ぶ。	
			アルゴリズムとプログラミング	プログラミングに必要となる問題解決のための手順や方法であるアルゴリズムの基本知識やプログラムの基礎について学習する。プログラムの勉強に欠かせないアルゴリズムとは何かについて解説し、アルゴリズムの種類や役割、そしてアルゴリズムを学ぶ意味について学習する。また、問題を解決するための考え方などについて解説する。	
			ICT活用法	現代社会では多くのICTを活用することが社会人として必須となっている。コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段の操作に習熟するだけでなく、それぞれの情報手段の特性を理解し、有効、適切に活用することができるようになるための授業を行う。情報手段の特性を説明でき、ICT機器を適切に操作・活用できることにより、教育現場で授業中、準備と評価においてのICTの活用、企業におけるICTの活用に関する内容について実践的な学びを展開する。	
			情報処理技術	ITを利活用するすべての社会人・学生が備えておくべきITに関する基礎的な知識について学習する。新しい技術（AI、ビッグデータ、IoT など）や新しい手法の概要に関する知識をはじめ、企業や経営全般の知識、IT（セキュリティ、ネットワークなど）の知識、プロジェクトマネジメントの知識など幅広い分野の総合的知識を学ぶ。ITを正しく理解し、効果的にITを利活用することのできる力を身に付ける。	
	健康教育科目		スポーツ	受講生が、新たな学びの場である大学という環境に順応できるよう、仲間づくりや健康の保持・増進に努めるべくスポーツ支援を行う。なお、運動領域の種目内容については受講生自らが選択することで、自己の能力に応じた楽しみ方での身体活動を行う。さらに、健康に関する基礎・基本の活動を通して、楽しさ（できる・わかる・つどう）を味わうとともに生涯体育の意識化を図る。	
			健康の科学	人間の身体と心の健康について科学的、実践的に学ぶ。心の健康については精神的なストレスが身体に及ぼす影響や依存症、摂食障害などを理解したうえで自己の生活を振り返り、健康状態や生活習慣のあり方を追究する。身体の健康については現在の自己の生活習慣を見直し、体重・体脂肪・コレステロールなどのコントロールの方法や運動による対処法を検討する。自己の健康管理能力を高めるだけでなく、教育者として子どもの健康管理について学ぶ。	
	キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	キャリア基礎演習Ⅰ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とし、学修などの記録（学修ポートフォリオ）を習慣付け、自己理解・自己管理能力の育成を図る。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	キャリア教育科目	キャリアデザイン領域	キャリア基礎演習Ⅱ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とする。学修ポートフォリオへの記録を継続するとともに、学修内容などの振り返りを通して、自己理解・自己管理能力および課題対応能力の育成を図る。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
			キャリア基礎演習Ⅲ	学生が社会において自身の役割を果たしながら自分らしい生き方を実現するため、社会的・職業的自立に必要な基盤となる能力を身に付けることを目的とする。学修ポートフォリオへの記録を継続するとともに、学修内容などの振り返りを通して、自分自身の課題などを把握したうえで、自身のキャリアを考える。また、科目の担当は担任制とし、年間を通して継続的な修学支援を行う。さらに、教員と学生および学生間のコミュニケーションを深め、コミュニケーション力を身に付けるとともに、学生の学修意欲を高める。	
			キャリアデザインⅠ	本授業科目では、本学での学びでDPを達成するための基礎力、および、将来のキャリア形成に必要な社会人基礎力の涵養を目的とした初年次教育を行う。キャリアデザインの学び、建学の精神と本学歴史の理解、専門科目と総合共通科目のカリキュラム構成の理解、キャンパス内でのマナーなど、本学学生としての第一歩を学ぶ。さらに、ブックカフェによって初対面の人々とのコミュニケーションの取り方を体験し、さらに、チームによる課題解決型学習へと展開する。この学習ではチームで力を合わせて一つの目標をクリアし、プレゼンし、ピアレビューを行うことで、課題発見能力、発信力、傾聴力、実行力、ストレスコントロールなど、キャリア形成に必要な諸々の力の自覚を促す。	
			キャリアデザインⅡ	本授業科目は、自らが希望する卒業後のより良い進路を獲得するためのものである。社会で求められる人物像や職業についての理解を深めながら、自己に適した職業を明確にするとともに、将来に向けての準備（就職活動）を行う。そのため、講義だけではなく、個人ワークやグループディスカッションなどを取り入れた授業を実践的に展開する。	
			キャリアデザインⅢ	本授業科目は、自らが希望する卒業後のよりよい進路を獲得するためのものである。社会で求められる人物像や職業についての理解を深めながら、自己に適した職業を明確にするとともに、将来に向けての準備（就職活動）を行う。そのため、講義だけではなく、履歴書の作成や学内業界研究セミナー、面接対策などを取り入れた授業を実践的に展開する。	
			インターンシップⅠ	本授業科目は、就業体験としてのインターンシップを行うために必要な知識・理解、技能、態度・志向性を涵養することを目的とし、次の4つの内容について座学と研修を組み合わせた集中講義形式で開講する。 (1) インターンシップの持つ意味、インターンシップのあり方、社会が求める主体性を発揮する人材とは、などについての講義 (2) コミュニケーションの取り方や傾聴力育成のワークの実践 (3) 北九州市が力を入れる取り組みと企業の種類や特色についての講義 (4) 市内企業の訪問	共同
			インターンシップⅡ	本授業科目は実際にインターンシップに参加することで、就業やキャリア形成についての意識や考え方を深め、職業人としての即戦力を身に付けることを目的とする。民間企業や官公庁などが実施する各種インターンシップに参加し、社会人基礎力としてのコミュニケーション力・分析力・課題解決力・行動力などの能力の育成にどのように努力したか、また実際にどのような体験が得られたかを報告書としてまとめ、必要な時間を積み上げて単位とする。 「インターンシップⅠ」の2単位を修得後に、大学での事前学習も含めて実際に参加した通算90時間以上の実習に対して、所定の手続きを経て2単位が与えられる。	
		キャリア発展領域	スキルアップ講座Ｂ	本授業科目では、TOEIC受験対策の英語、または英検受験対策の英語を実践学習する。TOEIC対策では、リスニング力・文法力・長文読解力・語彙力などのスキルを向上させ、リスニングとリーディングの問題解答のコツを学ぶ。英検対策では、短文・会話文・長文の穴埋め問題の解答のコツを学び、典型的なトピックについて英文での論述を実践する。学習の成果を確認するために、学内開催のTOEIC IPとTOEIC Bridge IPや学内実施の英検にトライする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
総合共通科目	キャリア教育科目	キャリア発展領域	スキルアップ講座Ｃ	本授業科目では、「スキルアップ講座Ｂ」から継続して、TOEIC受験対策の英語、または英検受験対策の英語を実践学習する。TOEIC対策では、リスニング力・文法力・長文読解力・語彙力などのスキルをより向上させ、リスニングとリーディングの問題解答のコツを継続して学ぶ。英検対策では、短文・会話文・長文の穴埋め問題の解答のコツを継続して学び、典型的なトピックについて英文での論述も継続して実践する。学習の成果を確認するために、学内開催のTOEIC IPとTOEIC Bridge IPや学内実施の英検にトライする。	
			スキルアップ講座Ｄ	教職課程履修者で中学校・高等学校（国語・書道）の教員を目指す学生が、教員採用試験を受験するにあたって必要な学力を習得するために、教員採用模擬試験・模擬授業・教員養成講座・教職専門講座を実施する。	共同
			スキルアップ講座Ｅ	教員養成のための授業科目であり、「スキルアップＤ」の受講者を対象としている。教員採用試験二次に課せられる「面接」「論作文」「集団討論」「場面指導」対策のための授業を行う。これまでの学習を踏まえ、採用試験対策のみならず、学校現場で活かせる教育実践力の強化を目指している。	共同
			スキルアップ講座Ｒ	「スキルアップ講座Ｂ・Ｃ」からさらに発展したTOEIC受験対策、または英検受験対策の実戦的学習を行う。TOEIC対策では、リスニング問題Part 3とPart 4の対策の強化、リーディング問題ではPart 6とPart 7の対策の強化に重点を置き、英検対策では、英文論述問題とリスニング問題への取り組みを強化する。学内および学外のTOEICテストで550点に到達すること、英検では2級の合格を到達目標とする。	
			スキルアップ講座Ｓ	「スキルアップ講座Ｒ」から継続して、発展的なTOEIC受験対策、または英検受験対策の実戦的学習を行う。TOEIC対策では、リスニング問題Part 3とPart 4の対策の強化、リーディング問題ではPart 6とPart 7の対策の強化に重点を置いた学習を継続し、英検対策では、英文論述問題とリスニング問題への取り組みの強化を継続して行う。学内および学外のTOEICテストで550点に到達すること、英検では2級の合格を到達目標とする。	
専門教育科目	学部共通科目		人間科学概論	「人間科学」とは、人間とは何かについて考え、人間そのものをさまざまな角度から分析・研究していく学問である。人間が健康的かつ文化的で豊かな人生を送るため、また多様な人々が共生できる社会を実現するために、対人援助職などの人と深く関わる職業に求められる能力の基礎を育成したい。そのためにまず概論として、心理学・教育学・社会学等多面的な視点から人間や社会を見る基礎的な知識を修得する。学修する過程において、受講生が自身の生き方や人間観を考える契機を与えるとともに、職業観などの進路選択のための基本的な知識・技能（自己決定力を含む）を養っていくことも意図する。	
			心理学概論	心理学の重要な基礎的知識についてできるだけ広範囲に学ぶことが目的である。はじめに、心理学の諸領域の紹介と歴史的背景、心理学の成り立ち、研究方法について概略を説明する。その後、行動の生物学的側面、行動の変容や知識獲得に関する学習の側面、情動、感覚と知覚、認知、記憶と忘却、パーソナリティの形成と知能、臨床心理学の基礎など、歴史的背景に触れながら理論的変遷も含め、人の心の基本的な仕組みおよび働きについて解説する。	
			発達心理学	認知機能、社会性の発達、自己と他者の関係のあり方と心理的発達、誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達と、各発達段階での特徴の基礎的な事項や考え方、発達障害などの非定型発達の基礎的な知識を学ぶ。発生的認識論等の理論に触れながら知覚や学習などの認知機能の発達を学ぶ。社会性の発達については、基本感情と社会的感情を扱う。自己と他者の関係のあり方と心理的発達については、自己認知や心の理論の幼児・児童期での発達や、自尊心の形成や維持、自己同一性などの青年期以降の発達を学ぶ。誕生から死に至るまでの生涯における心身の発達と各発達段階での特徴、高齢者の発達と心理を学ぶ。発達障害などの非定型発達については、自閉症スペクトラム障害、学習障害などその障害の理解だけでなく支援についても議論する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	学部共通科目		学習・言語心理学	学習・言語心理学では、経験を通して人の行動が変化する過程を説明できること、および、言語の習得における機序について学ぶ。本授業では学習心理学と言語心理学の内容を扱う。扱う学習心理学のテーマとしては、条件付け、知識の獲得、問題解決学習、技能学習、社会的学習などである。言語心理学は言語獲得とその背景にある理解や思考を対象とする。この言語学習の過程を捉えるために扱うテーマとしては、話し言葉の獲得、文字の獲得、語彙の獲得、文章理解力、文章の産出、第二言語の獲得などである。	
			コミュニケーション概論	現代社会においてコミュニケーションは欠くことができないものの、それに関する言説は膨大で科学的に妥当なものとはいえないものも数多く存在する。本授業科目では、科学的視点からコミュニケーションについて検討する。具体的には、認知、発達、学習、対人関係、パーソナリティなどの観点からコミュニケーションについて解説し、議論する。	
			社会調査法	社会調査は社会生活に関連する事柄について理解するために重要な役割を果たす。同時に、現代社会においては多数の社会調査が存在し、調査の結果が身の回りにあふれている。そこで、それらの情報を自ら精査し、解釈する能力の重要性が一層高まっている。本授業科目では、さまざまな社会調査の手法や計画・実施の手順について学ぶことに加え、社会調査の目的や意義を理解し、調査から得られたデータを適切に解釈できる力を養うことを目的とする。	
			教育・学校心理学	本授業科目は、教育心理学と学校心理学を統合した科目である。教育・学校心理学では、それぞれの学問の観点から、教育現場において生じるさまざまな問題と行動およびその背景について学ぶ。この部分では不登校、いじめ、学力低下、進路指導などについて扱う。加えて、「教育現場における心理社会的課題および必要な支援方法について学ぶ。」の部分では、特に、幼児・児童・生徒、保護者、教職員に対する相談・援助、助言などを取り上げる。	
	コース科目	心理学コース	社会・集団・家族心理学Ⅰ（社会・集団心理学）	本授業科目では、対人関係と集団における人の意識と行動についての心の過程、人の態度と行動、集団と文化が個人に及ぼす影響について学ぶ。対人関係と集団での意識と行動についての心の過程においては、心の専門家として援助を必要とする人との関係や医師をはじめとした他の援助者との関係を構築・維持するためのコミュニケーションについて基礎的な知識を学ぶ。人の態度と行動については、態度の背景となる感情や態度の結果として形成される社会的認知を含めて学ぶ。集団と文化が個人に及ぼす影響については、さまざまな集団がもつ個人への影響と文化が個人に影響していることについて、社会心理学と文化心理学の発展を踏まえて議論する。	
			健康・医療心理学	現代社会においては、「健康」への関心が高まっており、健康の維持・増進や疾病の予防・治療、健康教育などへの対応が重要な課題となってきている。このような視点から、人間の心身に関する問題を総合的に扱う。本授業科目では、健康心理学の歴史と定義、心理学的ストレス理論、ストレスと心身の疾病との関係、健康とパーソナリティ、健康心理アセスメント・カウンセリング、健康教育などの課題について、発達段階などを考慮しながら学んでいくこととする。また、医療現場における心理社会的課題および必要な支援や、保健活動が行われている現場における心理社会的課題および必要な支援、災害時等に必要な心理に関する支援について概説する。	
			知覚・認知心理学Ⅰ（知覚心理学）	保健医療、教育、産業などの現場で活用し、社会で活躍できることを目指して人の感覚・知覚の機序とその障害について概説できることを目指す。本授業科目では、知覚心理学の研究史、研究法、知覚心理学の諸領域とその概要、および知覚の障害について扱う。取り上げるテーマとしては、感覚の種類と構造や、感覚の一般特性、大きさ奥行き知覚、運動の知覚、パターン認知、物体認知などである。また、知覚の障害としては、失認の仕組みや診断などを取り上げる。	
			臨床心理学概論	心の問題がクローズアップされるようになった現代においては、臨床心理学や心理職（臨床心理士や公認心理師）についての社会的関心が高まっている。さらに、心理職の国家資格である公認心理師資格が誕生したことで、ますます心の健康への関心は高まるだろう。実践的な心理学の入門として、本授業科目では、臨床心理学の成り立ち（臨床心理学の歴史と定義）臨床心理学の代表的な理論や概念、心理査定、心理療法、ライフサイクルに応じた課題などについて、心理職の実際の活動を紹介しながら概説し、学んでいくこととする。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	心理学コース	知覚・認知心理学Ⅱ（認知心理学）	保健医療、教育、産業等の現場で活用し、社会で活躍できることを目指して人の認知・思考等の機序とその障害について概説できることを目指す。本授業科目では、認知心理学の研究史、研究法、認知心理学の諸領域とその概要、および認知機能の障害について扱う。取り上げるテーマとしては、選択的注意、ワーキングメモリ、長期記憶、知識の表象、問題解決、意思決定などである。また、認知機能の障害としては、注意障害や記憶障害、見当識障害などの仕組みや診断などを取り上げる。	
			心理学研究法	心理学における量的研究と質的研究の二つについての実証的研究法について学ぶ。これらの研究法はそれぞれが利点と欠点をもつ。お互いを補い合うことを理解し、どちらのアプローチも柔軟に使いこなせることを学ぶ。また、心理学で用いられる実証的な思考方法を身に付けることを目指す。心理的な支援を必要とする者に対してどのように観察し結果を分析するか、どのような援助をするか、どのようにその援助の効果を評価するかといったことについて、データを用いて正確に判断できる実証的な思考方法を獲得する。また、心理学研究法では研究倫理について、研究計画の段階から研究の遂行・成果の公表・研究終了後の管理に至るまでを学ぶ。	
			心理学的支援法	本授業科目は公認心理師となるための学部に必要な重要科目の一つである。代表的な心理療法ならびにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応および限界を学び、心理支援に関する基礎的な知識を身に付ける。他者を援助する際に配慮すべき点について気づき、理解を深め、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を学ぶ。さらに、プライバシーへの配慮や、訪問による支援や地域支援の意義についても解説する。心理支援を要する者と関係者に対する支援、さらには国民全体の心の健康に寄与するため、心の健康教育についても触れる。	
			心理学統計法Ⅰ	心理学で用いられる基礎的な統計手法、および統計的な基礎的知識を学び、データを用いて実証的に考えることについて学ぶ。本授業科目で学ぶ基礎的な手法としては、一方の変量から他方の変量の予測式を通して二つの変数間の関係性の有無や強弱を知るための単回帰分析や、従属変数に関する群間、条件間の統計量を比較するｔ検定や分散分析などである。統計的な基礎知識やデータを実証的に考えることについては、変数の種類や図表によるデータの読み取り、代表値や散布度、分散、標準偏差、相関係数などの記述統計の基礎、母集団と標本、確率分布や点推定ならびに区間推定、推測統計の基礎について学ぶ。	
			心理学統計法Ⅱ	「心理学統計法Ⅰ」で学んだことを基礎として、心理学で用いられる基礎的な統計手法、および統計的な基礎的知識を学びデータを用いて実証的に考えることについて学ぶ。本授業科目で学ぶ基礎的な手法としては、複数の独立変数を用いて従属変数との関係を調べる重回帰分析、偏回帰係数の算出、決定係数の算出、その他に重要な分析として因子分析を取り上げる。統計的な基礎知識やデータを実証的に考えることについては、母集団や標本等について復習したうえで、標本統計量や標本分布、標準誤差、加えて最小二乗法などの母数の推定の仕方などについて学ぶ。	
			心理学実験Ⅰ	心理学の実験を通して、実験の計画を立てること、および実験データの収集および処理を適切に行うこと、実験の結果について適切な解釈をし、報告書を作成することを学ぶ。実験テーマには、知覚・認知・感情・学習などの基礎的なものを中心に扱う。実験の計画においては、実験の種類（記述的研究・相関的研究・因果的研究）を区別し、特に因果的研究について計画を理解し設計できるようになることを目指す。データの収集としては精神物理学的測定法や反応時間等の測定を行う。また、データの尺度水準に応じた整理の仕方、分析について学び、これらについて、目的・方法・結果・考察を含むレポートを作成する。	共同
			心理学実験Ⅱ	「心理学実験Ⅰ」を踏まえ、心理学実験の計画を立てること、および実験データの収集および処理、実験結果の解釈、報告書の作成をより発展的に学ぶ。実験テーマには、知覚・認知などの基礎的なものから、対人認知や思考等の応用的なものも扱う。実験の計画においては、実験の種類（記述的研究・相関的研究・因果的研究）を理解し、因果的研究に限らず柔軟に計画を設計できることを目指す。データの収集としては実験法だけでなく、調査法、観察法なども学ぶ。データの尺度水準に応じて数的データと質的データの各々の整理の仕方や分析について学び、これらについて、目的・方法・結果・考察を含むレポートを作成する。	共同

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	心理学コース	心理的アセスメント	心理職の重要な業務の一つに心理アセスメントがあり、心理専門性が高い授業科目である。本授業科目では、心理的アセスメントの目的および倫理、心理アセスメントの観点および展開について概観し、心理的アセスメントの主たる方法として、観察法、面接法、心理検査を具体的に学ぶ。心理的アセスメントの方法を学ぶ過程においては、適切な記録および報告についても学ぶ。心理検査は被験者をより深く理解し、より有効な治療や援助を得るための道具であるが、単なるレッテル貼りのような被験者の人権や利益を考慮しない利用はあってはならない。	
			神経・生理心理学	脳神経系の構造および機能、記憶、感情等の生理学的反応の機序、高次脳機能の障害および必要な支援について学ぶ。神経・生理心理学は、正常・異常の両面から脳・行動・心の関係を検討する学問領域である。心理学を学ぶうえで神経・生理心理学を学ぶ意義は、心を知るうえで背景となる生理的・脳神経的な文脈を学ぶこと、および心の機能の制約となる感覚器・神経系の動作を知ることで複雑な心の働きを学ぶことである。これらの意義を踏まえて、以上の2点を学ぶために以下のようなトピックを取り上げる。脳の構造や神経系の情報伝達、感覚・知覚・運動における脳の関わり、学習・記憶と健忘、感情・ストレスと健康、高次脳機能障害、精神疾患と脳、脳機能障害とその支援。	
			社会・集団・家族心理学Ⅱ（家族心理学）	家族心理学を中心に、対人関係ならびに集団における人の意識と行動についての心の過程、および、家族や文化が個人に及ぼす影響を学ぶ。家族の機能や発達・健康の他、親子関係、夫婦関係、きょうだい関係など家族内の関係が扱われる。家族を一つのシステムとしてとらえることを強調し、臨床的アプローチがとられてきている。このような家族心理学独自の取り組みを中心に学びながら、社会心理学における実証的な観点から家族を理解しようとする試みについても論じる。また、これまでの文化心理学の発展を踏まえ、文化的自己観などの枠組みを基礎にして個人の認知・思考や人間関係のあり方が影響を受けていることについて学び、これらの知識を臨床実践に活用することを目指す。	
			心理演習	本授業科目では、心理アセスメント、心理面接の技能における基礎的な知識および技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の5つの事項について具体的な場面を想定した役割演技（ロールプレイング）を行い、かつ、事例検討で取り上げる。①心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識および技能の修得（コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援などについて）、②心理に関する支援を要する者などの理解とニーズの把握および支援計画の作成、③心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ、④多職種連携および地域連携、⑤公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解を学ぶ。	共同
			精神疾患とその治療	これまで精神疾患は、内因・外因・心因の3つに分類されてきたが、現在では「生物心理社会モデル」が台頭している。これは、精神疾患を発症する要因は単一ではなく、生物・心理・社会というさまざまな要因が複雑に絡み合っているということを示している。「国民の心の健康に寄与する」ことが求められる公認心理師にとっては、精神疾患についての知識は非常に重要である。本授業科目では、精神疾患総論として、代表的な精神疾患についての成因、症状、診断法、治療法、経過、本人や家族への支援を含めた概略を説明する。また、向精神薬をはじめとする薬剤による心身の変化について、医療機関との連携についても触れ、チーム医療の一端をどのように担っていくか学ぶことを目的とする。	
			障害者・障害児心理学	身体障害、知的障害、および精神障害と、障害者（児）の心理社会的課題および必要な支援について学ぶ。身体障害、知的障害、および精神障害については、基本的な理解として、障害という用語について学び、障害とはなにかについて理解する。障害者（児）の心理社会的課題および必要な支援については、まず障害の種類について歴史的な観点を踏まえて整理し、我が国における特別支援教育の背景について学ぶ。加えて、発達的な視点から支援について考える。ここではそもそも支援が心理学においてどのように導入されてきたかについてを取り上げ、発達的な観点から心理的アセスメントの重要性を学ぶ。また、学校教育における障害者への支援、さらには卒業後の障害者の就労といった点についても論じ、ここでの心理学的支援の必要性について学ぶ。	
			人体の構造と機能及び疾病	身体的疾病と心理的機能は、複雑に関係し影響し合っている。このため、人を支援するとき、心理的側面だけでなく、身体的側面についても知っておくことが重要である。本授業科目では、心身機能と身体構造およびさまざまな疾病や障害について概説する。また、がん、難病などの心理に関する支援が必要な主な疾病については、死への恐怖・不安などのさまざまな心理的苦痛を抱える可能性が高い。ストレスへの対処法や、周囲の人への支援方法などについても概説する。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	心理学コース	感情・人格心理学	感情に関する理論と感情喚起の機序、感情が行動に及ぼす影響、人格の概念と形成過程、および人格の類型、特性などについて学ぶ。感情に関する多様な定義について整理し、表情論や末梢起源説・中枢起源説などの感情に関する理論を概観する。感情が行動に及ぼす影響については、感情が日常の種々の状況においてどのように適応的な判断を導くかを整理していく。また看護、介護、接客等の感情労働などにおけるストレスについても理論的に学ぶ。人格の概念と形成過程については、人格の定義について歴史的な観点から学び、形成については遺伝要因と環境要因を扱う。人格の類型、特性などについては、類型論についての歴史的な考察について整理し、特性論が中心になっていることを学ぶ。	
			福祉心理学	福祉の現場では、児童、障害児・者、高齢者など、対象者は多岐に渡り、それぞれに合わせた支援を行うことが求められる。本授業科目では、まず基本的な社会福祉の知識を学び、福祉現場において生じる問題およびその背景、福祉現場における心理社会的課題および必要な支援について概説する。また、近年問題となっている、児童・高齢者に対する虐待についての基本的知識を学び、関係法規の理解を深め、支援方法に活かしていく知識を修得することを目指す。	
			産業・組織心理学	本授業科目は、公認心理師となるための学部の必要科目の一つである。組織のおける人の行動、仕事への動機付け、職場の人間関係、リーダシップなど職場における問題（キャリア形成に関することを含む。）に対して必要な心理に関する基礎的知識を習得し、支援について学ぶ。また、職場における人間関係やメンタルヘルス関連知識および人事測定を含めた産業・組織関連法制度、マーケテイングにおける人の心理行動についても学ぶ。	
			司法・犯罪心理学	司法・犯罪の分野においても、心理職の専門性が求められている。この分野で活動するためには、司法行政機関の役割や、基礎的な法律を知っておかなければならない。このため、本授業科目では、犯罪・非行、犯罪被害および家事事件についての基本的知識を修得する。その上で、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理に関する支援について学ぶ。また、犯罪行動についての原因論、アセスメントの方法と理解、加害者支援、被害者支援などについても概説する。	
			公認心理師の職責	公認心理師は、公認心理師法によってその業務や役割、義務、罰則等が示されている。「国民の心の健康の保持増進に寄与する」という目的を果たすためには、公認心理師が自身の役割や専門性、倫理等を十分に理解しておく必要がある。本授業科目では、公認心理師の役割、公認心理師の法的義務および倫理、心理に関する支援を要する者などの安全の確保、情報の適切な取り扱いを学ぶ。また、公認心理師法では、保険医療、福祉、教育等、他の関係者などとの連携を保つことを求められているため、保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務や、多職種連携および地域連携について説明する。さらに、公認心理師は生涯を通じ、学習し職業的成長をしていかなければならない。自己課題発見・解決能力を持ち、生涯学習への準備をする責務があるということを概説する。	共同
			関係行政論	公認心理師にとって、法律や制度について知っておくことは必要不可欠である。また、多職種連携および地域連携を行うためには、関係する法律や制度の知識がなければいけいない。このため本授業科目では、保健医療分野に関係する制度、福祉分野に関係する制度、教育分野に関係する制度、司法・犯罪分野に関係する制度、産業・労働分野に関係する制度について学ぶ。はじめに、法律や制度を学ぶ意義を説明し、そのうえで関係する法律や制度の歴史的経緯、公認心理師との関係などについて理解を深めることを目的とする。	共同
			心理実習	本授業科目では、実際の現場において心理に関する業務について施設などでの見学などによる実習を行う。公認心理師は、チームの一員として専門性を発揮しながら業務を行うことが求められているため、見学・実習を行い、公認心理師の心理に関する支援を要する者へのチームアプローチや、多職種連携および地域連携を学ぶ。また、見学・実習や事前事後指導において、公認心理師としての職業倫理および法的義務への理解を促していく。見学・実習の施設は、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働の5つの分野において3分野以上行うこととし、保健医療分野は必須で行う。	共同
		国語・書道教育コース	日本語学概論（音声言語を含む。）	日本語学に関する基本的な知識を身に付けることで、日本語に対する理解を深めること、日本語に関する疑問を持てるようになることを目的としている。また、本授業科目は、中高の国語教員免許取得のための必修科目である。したがって、教育実習に行くにあたって必須である漢字力を身に付けることも目的としている。講義ではグループワークを行う。大学生が必要とする、積極的に考えて自分の考えを持つこと、その考えをわかりやすく伝える力を身に付けてほしい。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	国語・書道教育コース	日本古典文学史	日本上代、中古、中世、近世の文学史を対象とする。時代思潮、政治、経済の動きを視野に入れジャンル、作家と作品について解説する。代表的作品の本文を引用して問題点や課題を一回ごとに明示したうえで日本古典学史を概説する。討論・発表にも取り組み、通史だけではなく、作品に描かれた作品背景を考察し、作品を取り巻く文化や社会についての知識を深める。	
			楷書法Ⅰ	高等学校芸術科「書道」の教科書に掲載される基礎的な古典を中心に、楷書の基本習得を目指す。多様な古典の書風を鑑賞し、実技を通して基礎的な技法を習得し、表現できるよう学習する。それら古典の筆者や内容の正確な情報を理解し、併せて中国の歴史（政情や時代背景）や地名なども学習したうえで、「楷書」という書体の書道史的価値を考察・検証する。また書道における書体（篆書・隷書・楷書・行書・草書）への発展も意識させる。	
			楷書法Ⅱ	本授業科目では楷書の古典を取り扱うが、各古典の基本的運筆・章法を使いながらも応用的（創作的）な視点で作品制作を行う。単に古典を写す臨書作品ではなく、紙面に応じたまとめ方（表現）について検証しながら作品をまとめることを第一とする。紙のサイズは半切を使用。「楷書法Ⅰ」を履修していることが受講条件である。	
			行草書法Ⅰ	本授業科目では、中国書道史の中で代表的な行書・草書の古典資料を臨書することで、それらの基本的書法の習得を第一の目的とする。中国書道史の流れに則し臨書することで、書法や表現技術の習得のみならず、文字・書風の変遷についても考察を加えながら授業を進める。具体的には、王羲之前の書法から王羲之書法、唐時代の書法、北宋時代の書法を中心に取り上げて学習する。	
			行草書法Ⅱ	行草書は一点一画を分離させて書く楷・隷書体と異なり、点画あるいは文字の流動性を重視する書体であり、行草書発生以来、実用書としてまた作品制作の素材として最もよく使われてきた。二十世紀初頭以来、中国各地域において遺跡発掘が行われ、書体変遷史は研究の途上にある。高等学校芸術科書道の教科書に取り上げられる古典を中心に、表現の多様性を考慮して、基本的な表現技術の向上を目指す。また行草書の歴史的展開や行草書の能書家について併せて学習する。	
			日本語文法	本授業科目は中高の国語教員免許取得のための必修科目である。したがって、中学高校レベルの文法をマスターしていること、中学校で使用できる教材を作成できることが単位認定の最低条件である。講義では、文法事項の確認とともに、中学校で学習する国文法の成り立ちやその問題点についても説明する。テキストは、東京書籍が刊行する、中学生向けの国文法用テキストである。現在中学校で行われている国文法教育を踏まえて、教材を作成したり、国文法教育の問題点について理解を深めることを目的としている。	
			日本近現代文学史	明治開化期から戦後までを対象とした作家・作品について講義する。代表的作品の冒頭本文を引用して問題点や課題を一回ごとに明示したうえで、日本近現文学史を概説する。朗読テープや映像を視聴しながら、討論・発表にも取り組む。通史だけではなく、時代や社会の構造といった文学作品に描かれた作品背景を考察し、作品を取り巻く文化や社会についての知識を深める。	
			書写書道Ⅰ	本授業科目では、中学校国語科書写に携わる国語教師として必要な知識と実践的指導方法を学習する。学習指導要領の示す書写の意味や、自ら考え自ら学ぶ書写指導のあり方、教材、ICTを活用した授業の展開などを考えていく活動を通して、単元・授業を構想することができるようにする。また、毛筆とともに発展してきた文字文化について理解を深めるとともに、中学校国語科書写の基礎的な内容の理解を図る。	
			書写書道Ⅱ	本授業科目では、国語科指導要領の「文字を正しく整えて、速く、そして調和よく書く」を念頭に置き、小学校または中学校国語科書写における、毛筆による書写技能の習得を中心に行う。楷書、行書、楷書と仮名（ひらがな・カタカナ）の調和、行書と仮名（ひらがな）の調和について練習し、硬筆への応用を考慮しながら実技練習を進める。内容の特性により「書写書道Ⅰ」を単位取得していることが履修条件である。	
			日本語史概論	日本語の音韻、文字表記、文法、文体、語彙などがいつ、どのように変化してきたのかということばの歴史の概略を学ぶ。また、日本語の歴史を明らかにするための資料についても学び、言葉の歴史を調査するために必要な知識を身に付ける。授業は講義だけでなく、資料の調査や例文を基にして学生自身がことばの歴史を分析するというワークも実施する。このような活動を通して、日本語に対する興味関心を高めることおよび、論理的思考力の向上を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	国語・書道教育コース	日本古典文学	上代から近世までの代表的な文学作品における成立・伝本・研究史・文学表現の方法などを学ぶことを目的とする。本授業科目では上代、中古、中世、近世の代表的な文学作品について、講読しながら内容や文学表現の方法を理解する。作品の成立については、作品の特徴や時代背景、他の文学作品の影響などについても学びながら理解する。また、古典作品の伝本についても学ぶことで、国語の教科書等に見られる古典作品の性格について理解を深める。	
			日本古典文学演習	本授業科目では、古文を正確に読むために必要な古典文法の知識を身に付けることを目的とする。そのために『とりかへばや物語』を品詞分解しながら読んでいく。授業は、受講者の発表によって進める。発表は、『とりかへばや物語』の担当範囲の品詞分解、現代語訳、敬意の方向を調査し、形式にのっとってレジュメを作成した上で行う。1回以上発表することが単位認定の最低条件である。また、発表に対する質問も評価対象とする。積極的に考え、徹底的に調査して発表すること、発表を批判的に聞くことを求めている。	
			漢文学Ⅰ	漢文は近世・近代の日本語に深い影響を与えている。本授業科目ではその漢文の基礎である語順・送り仮名・書き下し分・返り点などを学習することで漢文の基本構造を理解させる。またその学習を踏まえたうえで、故事成語や中国史を知り、いかに漢文が日本語・日本文化に貢献してきたかを講義する。	
			漢文学Ⅱ	「漢文学Ⅰ」を踏まえ、本授業科目ではさまざまな漢文を訓読するとともに教員採用試験に対応するため、設問等が準備してある漢文の問題集を丁寧に学習する。基本的な漢文訓読の句法や句形に関する知識を理解定着させ、さらに質量ともに難易度の高い漢文を訓読することを通して、漢文訓読の力を身に付ける。白文で訓読する学習も積極的に行い、高等学校の漢文学習にも対応できる漢文学力の向上を目指す。	
			中国書道史	中国史、文化史、書体史、文字学、能書家、これらを総括的に書道史の中で学習する。併せて、書に関する表現や鑑賞を深め、中国書道史を概観する。文字の発生から楷書の完成までの書体史と、唐時代以降の書風の変遷・展開を概観しながら、表現活動と書学の関連性についても理解の向上を目指す。	
			日本書道史	本授業科目は「日本における書の変遷」を通観しながら、日本の歴史にも言及する。書を学ぶ者にとって、書道の学習上、史・論の基礎的研究や知識は不可欠である。本授業科目は書の歴史が中心ではあるが、併せて古筆学・書論などにも言及する。中国書道史の基本的知識を必要とするため、中国書道史を修得していることが履修条件である。また博物館・美術館などにも、書関係資料の展覧があれば、積極的に足を運んでもらいたい。学外演習も必要に応じて実施するため、積極的に参加してもらいたい。	
			書論	本授業科目では、中国書道史の中における代表的な書論を取り上げ、それぞれの論者の思想や時代背景を考察しながら、特に「書の時代性」について論じられている部分を焦点に、内容読解と他の書論との関連または比較検証を中心に講義する。各週の課題（課題は中国語または漢文で表記されたもの）に対し、口頭発表（毎週、必ず受講者全員に発表を割当てる）を行いながら、各書論に対する理解を深めていく。	
			鑑賞	中国・日本における代表的な古典や古筆を中心に、基本的な鑑賞の方法を学ぶ。具体的には「高等学校書道Ⅰ」で取り上げられる古典・古筆を中心に、ポイントを絞って考察し、実践的鑑賞力の向上を目指す。また、「感じたことを伝える」能力を磨くために、語彙力の向上を行いながら、より良い鑑賞方法を目指す。	
			篆隷書法Ⅰ	中国書道史の中で代表的な篆書・隷書の古典資料を臨書しながら、それらの基本的書法の習得を目的とする。中国書道史の流れに則し臨書することで、書法や表現技術の習得のみならず、文字の成り立ちや変遷についても解説を行いながら授業を進める。漢字に対して、各自が積極的に研究ができる基盤作りも目指す。篆書においては甲骨文・金文・小篆の書法を、隷書においては簡牘・帛書・石碑文字の書法を取り上げて学習する。	
			篆隷書法Ⅱ	「篆隷書法Ⅰ」で学んだ基本的書法をさらに展開させ、金文、小篆、漢碑、木簡の臨書を行う。また篆隷書法に関連する工具書についても知識を深め、臨書から創作へと表現活動に対する能力の向上を目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	国語・書道教育コース	仮名書法Ⅰ	日本の漢字の受容と仮名への展開を理解しながら、「平仮名」や「変体仮名」などの単体文字の基礎的な練習の後、基本的連綿を中心とした表現技術の向上を目指す。古筆の臨書を通して、仮名の実用性と美の両面を学習する。併せて「古今和歌集」や「和漢朗詠集」など、日本古典文学としての価値についても学習する。	
			仮名書法Ⅱ	「仮名書法Ⅰ」で培った技法を基礎として表現の展開を目指す。単に文字を書くだけでなく、古筆を詳細に検証しながら復元倣書も行う。さらに、壁面芸術への展開を考慮して、大字仮名の創作も行う。小字仮名から大字仮名まで取り扱うため、用具用材に関しての、知識・理解の向上も目指す。	
			漢字仮名交じり書法Ⅰ	日本には、素敵な詩歌、俳句があり、一人ひとり心に刻んだ大切な言葉をきっと持っている。さらに日本には、芸術にまで高めた「書」もある。その言葉と「書」がうまく融合し、自分らしく表現できた時、その言葉（書）には新しい命が生まれる。書風にはその時代の流行があり、現代日本には、漢字・ひらがな・カタカナなどがある。これからの時代にあった書表現をするためには、この「漢字仮名交じり書」の学習は不可欠なのである。中国書法の書線を基盤に、漢字仮名交じりの書表現の基礎を習得することを目指す。	
			漢字仮名交じり書法Ⅱ	書表現をする場合、基となるのは古典や古筆である。しかし、現代の詩歌や俳句などを書表現しようとする場合、これだけでは現代性豊かな書表現はできない。漢字仮名交じりの書（詩文書）には明解な古典がない。よって、まずは現代作家の作品を習字し、その表現の多様化を習得してのち、自己表現へと展開し、個性豊かな作品制作を行う。	
			教職概論	教育職員である教師にとって必要なことを学ぶ基本的・入門的な内容である。教職の意義や教師の役割、教師の仕事内容についての理解を深め、自分の教職への意欲、適性について考える機会とする。具体的には、現在の教員に求められている資質能力および資質向上のための研鑽や研修、教員養成の歴史、教師になって関わる教育内容、学校を中心とした職場環境などについて講義する。	
			教育原論	教育とは何かを理解するために教育についての基礎的・基本的な知識を習得し、教育のあり方について考える授業である。特に学校教育を中心にみていく。具体的には、教育に関する主要な理念や思想、歴史、教育に関する基本的な法律と制度、学習指導要領などにみられる学校教育の内容と方法、道徳教育や特別支援教育などの動向、家庭や地域社会の教育機能などについて学び、児童・生徒の成長・発達をよりよく支援することについて考える。	
			教育心理学	本授業科目では、子どもの発達や学習過程、教授法、評価方法などに関しての教育心理学の知見を解説する。発達、知能、パーソナリティ、学習意欲、学習方法、教育評価などをトピックに進める。	
			生徒・教育相談論（中等）	教職科目として、教育相談の基本的考え方、意義、援助の方法について理解することを目的としている。背景としてカウンセリング理論を理解し、不登校、いじめ問題、発達上の困難を抱えて支援が必要なケースなど、近年の教育相談の動向についても取り入れながら、連携のあり方などの教育効果を高める具体的な援助を学ぶ。	
			日本語学演習Ⅰ	現代の日本語を対象として、ことばの使用実態の調査方法および分析方法を学び、実際にことばの調査を行うことで、日本語に関する専門知識を身に付けることを目的とする。本授業科目では、まず調査テーマの探し方および調査方法について説明する。そのうえで、学生自身が実際にことばに関するテーマを探して、調査を行い、その内容を資料にまとめて口頭発表をする。このような過程で、情報収集力、分析力、論理的思考力、文章表現力を高めることも目的としている。	
			日本語学演習Ⅱ	古典日本語を対象として、ことばの使用実態の調査方法および分析方法を学び、実際にことばの調査を行うことで、古典語に関する専門知識を身に付けることを目的とする。本授業科目では、まず調査テーマの探し方および調査方法について説明する。そのうえで、学生自身が実際にことばに関するテーマを探して、調査を行い、その内容を資料にまとめて口頭発表をする。このような過程で、情報収集力、分析力、論理的思考力、文章表現力を高めることも目的としている。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	国語・書道教育コース	日本近現代文学演習	近現代の文学作品を対象として、文学作品の分析方法を身に付ける。本授業科目では、まず近現代の文学作品を分析する観点や方法について説明する。そのうえで、学生自身が実際に近現代の文学作品を分析し、その内容を資料にまとめて授業で口頭発表を行う。このような口頭発表および発表内容に関する議論を行うことで、近現代の文学作品を深く読み込み、分析する力を身に付ける。また、このような過程で、分析力や思考力、文章表現力等を高めることも目的としている。	
			国語科教材分析	本授業科目では国語の授業構築力および教材分析力を身に付けることが目的である。具体的には、授業構成と現代文・古典の教材分析方法を学んだ上で、実際に教材分析を行ってもらう。授業構成については、1時間の授業における中心的な問いと答えを意識して授業を構成する習慣を身に付ける。教材分析については、教材とする文章を深く読み込み、学習指導要領を踏まえて教授する方法を学ぶ。また、中学生・高校生が楽しく国語を学ぶための教材を作成する。以上を通して、実践的な授業力を身に付ける。	
			コース実践演習Ⅰ	国語科教員に必要な国語の知識、授業力、コミュニケーション能力を身に付ける。具体的には現代文・古文・漢文・国語常識などの問題演習を通して専門知識を、模擬授業を行うことで授業力を、場面指導を行うことで生徒指導力を、集団討論などを行うことでコミュニケーション力の向上を図る。また、新中学校学習指導要領および解説編の記載事項を踏まえて国語教育の意義と目的、国語科の科目の内容などについて理解し、国語科教員としての資質・技能の向上を図る。書道においては、高等学校芸術科書道に関する「理論」・「実技」（漢字の書、仮名の書、漢字かな交じり書、それぞれの分野の臨書と創作）・「日本書道史」・「中国書道史」・「文房四寶」・「生活の中の書」を総括的に学習し、各分野について教育現場に則したより実践的な教育方法を研究する。	共同
			コース実践演習Ⅱ	「コース実践演習Ⅰ」の内容を引き続き行い、高いレベルでの国語の専門知識、授業力、コミュニケーション力、生徒指導力を身に付けさせる。国語科教員として理解しておくべき、国語科の授業の知識や技術（発問、板書、発声や話し方・聴き方、机間指導、授業の組み立てなど）について模擬授業を通して習熟させ、中学校や高等学校の現状を認識し、教育実習への意識を高める。また、新中学校学習指導要領および解説編の記載事項を踏まえた問題演習を通して、より学習指導要領への理解を深める。書道においては、高等学校芸術科書道に関する「理論」・「実技」（漢字の書、仮名の書、漢字かな交じり書、それぞれの分野の臨書と創作）・「日本書道史」・「中国書道史」・「文房四寶」・「生活の中の書」を総括的に学習し、各分野について教育現場に則したより実践的な教育方法を、模擬授業などを行いながら研究する。	共同
			コース実践演習Ⅲ	「コース実践演習Ⅱ」の内容を引き続き行い、さらに高いレベルでの国語の専門知識、授業力、コミュニケーション力、生徒指導力を身に付けさせる。教育現場における実践力の向上を目指して、模擬授業・場面指導・集団討論などの指導を充実させる。また、新中学校学習指導要領および解説編の記載事項を踏まえた問題演習を通して、より学習指導要領への理解を深めると同時に、国語科教員としての役割を自覚し、その資質・技能の向上を図る。	
		文化文芸コース	文化文芸概論	社会の変化の中（時事・政治・経済産業など）での文化文芸という視点で、伝統から近現代まで、世界から日本、地域の文化文芸についてその発展と魅力を概観し、現代社会における文化文芸の位置を考えていく。また、文化と経済に関する現状を理解し、動向を含め、それと関わる職業も含め概説する。学びを通して、文学や芸術の歴史から流通、メデイアとの関係を説明でき、社会を批評できる力を育成する。	共同
			日本文学概論	本授業科目では、作品の構成、主題、表現等、文学研究の基本となる知識を学び、文学作品を読み解く力を身に付けることを目的とする。また、近現代の代表的な女性作家の作品本文を取り上げ、小説の文体や主題が、それが生まれた時代や社会によって生み出されていることを理解し、文学作品を通して人間や人生を捉える視点を養っていく。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	文化文芸コース	日本近現代文学	本授業科目では、人間の弱さや苦しみに共感の眼差しを向ける遠藤周作の文学作品の特徴やテーマについて学び、作品の現代社会における意義を考えていく。	
			日本語の歴史	大学入試の古文の定番「係り結び」は平安時代の文学には盛んに見られるが、中世以降は「徒然草」にわずかに確認できる程度で、やがて消滅する。しかし、江戸時代の国学者がルールを解明し、現代の高校生が受験で苦しむことになる。現在「国語」では「言葉の乱れ」と捉えられている「ら抜き言葉」等は100年後、どうなっているか。日本語の文法や語彙を変化の視点から学ぶ。	
			日本語の古典	日本の古典の読解を通して、語句の用法や文の構成・展開を理解するとともに、言葉のリズム・韻律・修辞などの表現技法について学修する。また、古典作品の読解によって、美意識、自然観、社会観を含めた日本の伝統文化を学ぶことにより、古典作品に見られる言語観に対する理解をより一層深め、古典に見られる多様な言語芸術が有する価値について探究する。	
			文章表現	『坊つちやん』『こころ』などの小説で知られる夏目漱石だが、実は生涯に約2500句の俳句を残している。また漱石は「手紙魔」でもあり、多忙な執筆活動の傍ら、確認できるだけで2500通以上の手紙を書いている。本授業科目では、漱石の主要な作品を文章表現の面から鑑賞し、漱石が駆使した文体の効果について考える。さらに、漱石が残した多彩な「ことば」を通して浮かび上がる、漱石の人間像を理解する。	
			ビジュアル文化論	映像作品を文芸批評的に分析し、読み解く。文学研究で培われた着実な方法に基づき映像批評を行う。作品の背景に潜む問題や台詞にこめられた現代社会へのメッセージについて考察する。映像の背後にある思想を捉え、映像作品を読み解く視点と批評眼について提示し、ビジュアル文化に対する理解を深める。	
			メディアと現代文化	身の回りのあらゆる場面でメディアに囲まれている現代において、私たちの行動や生活様式は変容し、現代文化を考えるうえで欠かせないものとなっている。メディアとの関わりは、マスメディアからパーソナルメディアまで多様な形態をとり、情報の共有、伝達、情報のつながりやまとまりの単位は、複雑化している。メディアの変遷、効果や影響、メディアによって構成される社会を取り扱い、メディアと現代文化について考察する。	
			生活の中の書	高等学校芸術科「書道Ⅰ」に関連する「生活の中の書」分野の範囲で、「文字を書く」という行為を体験する内容である。具体的には、漢字文化圏の文字文化の中で発展し、我われの生活の中で定着している、冠婚葬祭や展覧会の受付などで用いられる芳名帳（録）や葉書や封筒の宛名書きや裏書き、便箋の書き方、祝儀袋などについて、毛筆・硬筆それぞれの書の楽しみ方を知る。また、簡単な表札なども制作し、現代においてどのような場面で手書き文字が活用されているか、その実態についても検証しながら、生活の中で書が果たしている幅広い役割を理解し、その効用を知ることで、書の伝統と文化を尊重・継承し、新たな書の創造を切り開いていく態度の育成を目的とする。	
			デジタル書道	単なる毛筆や硬筆を使った文字表記を表現の最終目的にせず、毛筆・硬筆で表記された文字をデジタル化することで、新しい書芸術を目指すことを目的とする。具体的には、筆文字や硬筆文字をパソコンに取り込み、CGグラフィック・写真などと融合させ、手書き文字表現の現代における可能性を研究する。また、手書き文字をどのように社会に発信していくか、その新たな方法を研究する。	共同
			書文化研究	篆刻・刻字、拓本、装丁等、漢字文化圏における書作品または書や書籍に関する知識・理解の向上を目指す内容である。書道関係の学生だけではなく、日本文化や図書館情報関連に興味のある学生に対して、「書」または「文字」に纏わる歴史・伝統・文化を理解する態度の育成を目的とする。単なる知識に留まらず、篆刻・刻字、装丁（和綴じ・巻子・折帖等）に関する内容では、簡単な制作活動を取り入れる。拓本に関する内容では、実際の取拓も行う。また、貴重な拓本や希少本の扱い方なども実体験するなど、実践的内容・研究が主となる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	コース科目	文化文芸コース	水墨画演習	中国においては古来「書画一致」という考えがある。書表現で得た技術を水墨画に応用するとともに、水墨画本来の基本的技術を学びながら、筆に拠る総合的な表現技法を習得するとともに、中国・日本文化理解の深化・充実を目指す内容である。中国における宮廷画法や南画の技法を中心に研究・演習を行う。また、日本の水墨画の中には、時代におけるマンガ的要素の水墨画もある。このことから、日本の水墨画を単なる古い文化と捉えず、現代の日本が発信し、世界的にブームとなり日本文化とまで言わしめた「アニメ」「マンガ」のルーツとして考え、水墨画の基本的技法から応用的技法の習得を目指す。	
			文化文芸インターンシップ	現場から文化文芸に関する問題意識を高め、見学等の体験を通じて社会的経験を積み、創造性を高め、将来を構想するコース独自の体験学習である。例えば、地域の文化施設、漫画ミュージアム、図書館、子ども書道教室や関連企業でのインターンシップ、外部でのパフォーマンス、または、揮毫大会運営なども含む。インターンシップ内容は教員が用意するもの以外に企画・立案・実施という、学生が自立して取り組むことも視野に入れる。インターンシップ内容、社会的経験を報告書として取りまとめ、これを発表でき、その際の質疑に適切に応答できる力を育成する。	共同
			商品プランナー実務論	商品プランナー資格の取得を目指し、商品企画開発の基礎について学ぶ科目である。 本授業科目では、商品プランナー教育プログラム大学用テキストを使用し、文化商品などの例を取り上げながら、商品・サービス企画の基礎、開発のプロセス、市場調査の方法、ブランドからみるトレンドなどに関する基礎を学び、商品の企画・提案力、プレゼンテーション力などを培う。	
	ゼミナール科目		ゼミナールⅠ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、情報収集の実践に重点を置き、担当教員が設定したテーマについて情報を各自で収集する。収集した情報は、各自で精査・整理・分析を行い、その結果をまとめて発表する。	
			ゼミナールⅡ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、多面的な情報収集の手法の習得、および、要約・分析の実践に重点を置き、担当教員が設定したテーマについて複数の手法で情報を収集する。収集した情報は、要約・分析を行った後、考察をまとめて発表する。	
			ゼミナールⅢ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、グループで情報収集、要約・分析、発表を行うことに重点を置く。 担当教員が設定したテーマについて分担して情報収集し、グループディスカッションを行うなどして、グループとしての分析結果をまとめる。まとめた分析結果をグループごとに発表する。	
			ゼミナールⅣ	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、「ゼミナールⅢ」に引き続き、グループで情報収集、要約・分析、発表を行うことに重点を置く。グループディスカッションを通して、テーマ設定、情報の集約、分析、考察を行う。分析結果はパワーポイントにまとめてグループごとに発表する。	
			キャリア発展ゼミナール	ゼミナール科目では情報収集、要約・分析、発表を通して社会人基礎力の育成を図る。本授業科目では、「ゼミナールⅠ～Ⅳ」で習得したことを基に、興味・関心のある分野に関する卒業研究を行う。研究の成果は、研究レポート（卒業論文）としてまとめ、発表を行う。	
	教職に関する専門教育科目		教育行政学	本授業科目は教職専門科目の一領域「教育に関する社会的、制度的または経営的事項に関する科目」として開設されている教職専門科目の基礎的科目の一つである。本授業科目では教員採用試験のための教育法規にとどまらず、現場に入っても、また社会に出ても役に立つよう、広範囲にわたって教育問題を法的な眼差しで捉えるために必要で有効な情報と視座を整理していく。狭い意味での教育行政学ではなく、より広い教育制度的な視点から教育の状況を整理していく。	
			特別支援教育論	障害のある児童生徒等の教育などについて基礎的事項を知るとともに、その背景を通して、特別支援教育の理念、意義、あり方などを理解する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教職に関する専門教育科目	教育課程論（中等）	教育課程に関する基本的事項や重要項目、さらに、学習指導要領の内容について解説する。具体的には①教育課程の意義②教育課程編集の方法および理論や思想③我が国の教育課程に関する諸法令④学習指導要領の変遷⑤中学校・高校学習指導要領総則⑥総合的な学習の時間⑦新学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメントとアクティブラーニングとの関係性および教科など横断の視点に立った教育課程編成の実施や方法、評価を取り扱う。	
		国語科教育法Ⅰ	中学校および高等学校の国語科教育の意義と目標、国語科の科目の内容などについて、新中学校学習指導要領や解説編の記載事項を踏まえて解説する。特に、国語科教育の目標、国語科の内容[知識および技能][思考力、判断力、表現力等：A話すこと・聞くこと、B書くこと、C読むこと]について深く学習する。その後、中学校国語科教科書の教材を題材として、指導観（単元・教材観、生徒観、指導観）、単元目標、単元計画、本時の指導案等について考えた国語科学習指導案を作成し、模擬授業への導入とする。	
		国語科教育法Ⅱ	中学校や高等学校の国語科の現状を学習し､理解する。国語科教員として理解しておくべき事項：学習指導案、年間指導計画、教師としての話し方や聴き方、言葉遣い、発問や板書、机間指導、配慮すべき事項、評価などについて理解し、学習指導案や授業などに活用できることを目指す。また、素材研究、教材研究、教科指導法・技術の研究のポイントについて理解する。これらを通して、国語科教員の役割を自覚するとともに、国語科教員としての資質・技能の向上を図り、教育実習に資することを目指す。	
		国語科教育法Ⅲ	国語科の模擬授業等を通して中学校や高等学校の現状を認識し、教育実習への意識を高める。国語科教員として理解しておくべき事項：学習指導案、年間指導計画、教師としての話し方・聴き方、言葉遣い、発問や板書、机間指導、配慮事項、評価などに関する理解を更に深めることを目指す。また、古典教材（古文や漢文）の学習指導案を作成することを通して、我が国の伝統的な文化に対する意識を高めるとともに、古典教材を授業するうえでの基本的な知識を身に付ける。これらを通して､国語科教員としての役割を自覚し、資質・技能の向上を図る。	
		国語科教育法Ⅳ	国語科の模擬授業などを通して中学校や高等学校の現状を認識し、教育実習への意識を高める。国語科教員として理解しておくべき事項：学習指導案、年間指導計画、教師としての話し方・聴き方、言葉遣い、発問や板書、机間指導、配慮事項、評価などに関する理解を更に深めることを目指す。また、古典教材（古文や漢文）の模擬授業を通して、我が国の伝統的な文化に対する認識を深めるとともに、古典教材を授業するうえでの基本的な知識や授業技術などを身に付ける。これらを通して､国語科教員としての役割を自覚し、資質・技能の向上を図る。	
		書道科教育法Ⅰ	高等学校芸術科書道における学習指導要領の役割と内容を知り、特に今回の高等学校学習指導要領改訂の趣旨を理解することで、授業の全体像を考えることに主眼を置く。また学習指導要領と教科書との関連を模索し、教育活動（授業）での、教科書や関連資料の活用方法を学ぶ。加えて、アクティブラーニングによる教科指導法の視点を検証しながら、講義を進める。	
		書道科教育法Ⅱ	「書道科教育法Ⅰ」で学んだ指導法の研究を基に、各自が学習指導案を作成して実践（模擬授業）することを主とする。具体的には、各自の指導案と模擬授業を受講生相互で討議し、授業実践力と構築力の充実深化を図る。	
		道徳教育指導法（中等）	学習指導要領にあるように、道徳教育とは、学校の教育活動のすべてを通じて実施されるものである。本授業科目では第一に、この道徳教育の特殊性についての理解を深める。第二に、道徳教育の要である道徳の時間の重要性を理解するとともに、具体的な指導方法について検討することを行う。その際には、道徳教育に肝要な指導スキルとして、指導案の作成、基本的な指導過程、発問の工夫方法などを伝達していく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	教職に関する専門教育科目	特別活動・総合的な学習の時間指導法	特別活動は、各教科等学校全般の教育活動全体と深く関わっている。学習指導要領を踏まえ、集団の一員としての見方考え方を働かせ、「生活づくり」「人間関係づくり」「自主的実践的な態度」「自己の生き方」など、これからの社会を担う児童生徒の資質能力を培うことを目指す。本授業科目では学級活動、生徒会活動、クラブ活動、学校行事を取り上げながら、模擬授業を行う。また総合的な学習の時間も特別活動と同様に教科書はなく実生活や実社会における問題解決をする学習である。事例や実践を基にアクティブラーニングを通して、知識・技能、表現力、人間関係力の資質能力を培う。	
		教育方法学（情報通信技術の活用を含む。）	本授業科目は、①カリキュラム構造および編成過程、②効果的授業・学級経営の実践的方法、③情報通信技術の活用の意義と理論、④情報通信技術を効果的に活用した学習指導や校務の推進、⑤児童および生徒に情報活用能力（情報モラルを含む。）を育成する。	
		生徒・進路指導（中等）	本授業科目では、生徒・進路指導の意義や理念を学ぶ。教員が学校現場での実務経験に基づきながら講義を行い、問題行動等が生じたときの指導対応する処理能力だけではなく、未然に防ぐための積極的な生徒指導を学ぶ。また、学習指導、進路指導、教育相談等を含めての生徒指導の諸側面から生徒の人格の健全な発達を図る学級経営や教師の役割を、プレゼンテーション等を積極的に取り入れながら学ぶ。	
		中等教育実習事前事後指導	教育実習に備えるための事前指導および振り返りの事後指導を行う。事前指導においては、これまで教職関連科目で学んできたことを踏まえて、教育実習の意義と手順および注意すべき事項、教育職員の職務とその特殊性、服務内容、生徒指導、特別支援教育、人権教育について確認し、教科の授業研究について指導する。事後指導においては、実習校での体験を振り返り、教科の授業（査定授業）および教育実習全体についての自己評価と反省、考察を行う。	共同
		中等教育実習Ⅰ	「中等教育実習事前事後指導」の事前指導を修了した学生が、教職に必要な実践力を身に付けることを目的として教育実習を行う。実習期間は原則として5月～11月の間で、中学校3週間以上、高等学校2週間以上の実習を行う。実習は教職課程の最終仕上げに位置付けられるので、これまで学習してきた理論を実践に結び付けるために、教科教育面はもちろんのこと、学校教育のあらゆる場面における教育を体験し、柔軟に学ぶ姿勢で臨むことが求められる。	
		中等教育実習Ⅱ	「中等教育実習事前事後指導」の事前指導を修了した学生が、教職に必要な実践力を身に付けることを目的として教育実習を行う。実習期間は原則として5月～11月の間で、中学校3週間以上、高等学校2週間以上の実習を行う。実習は教職課程の最終仕上げに位置付けられるので、これまで学習してきた理論を実践に結び付けるために、教科教育面はもちろんのこと、学校教育のあらゆる場面における教育を体験し、柔軟に学ぶ姿勢で臨むことが求められる。	
		教職実践演習（中等）	本授業科目では、各自が、調査研究を行ったり、班での討論や全体の場での発表などをすることによって、中等教育学校の教師として必要な知識・技能や問題解決能力の習得のための学習と演習を行う。	共同
自由選択科目	図書館司書課程科目	図書館概論	図書館の学習全般にわたり最も基本的な知識、原理を学ぶ。特に社会における図書館の意義、役割や機能について理解する。また、図書館の歴史や現状を把握し、今後の図書館のあり方についても考える。さらに図書館経営や組織などの見識も深め、図書館関係団体など図書館を取り巻く環境についても学び、ネットワーク時代の図書館の将来展望について応用できる知識形成の基を築く授業とする。	
		生涯学習概論	図書館は生涯学習施設であり、司書は人々の生涯学習を支援する仕事であるとも言えることから、生涯学習についての基本的な理解を図る授業である。生きることはさまざまな課題を解決していく過程であり、課題解決の一つの方法が学習である。よりよく生きるためには生涯にわたる学習が重要であるという生涯学習の理念および時代背景を確認したうえで、生涯学習社会形成のために必要な視点を説明する。具体的には、社会教育と学校教育および家庭教育の各役割と関係、人生各期の学習、学習支援の方法、施設の役割などについて講義する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	図書館司書課程科目	情報資源組織論	資料組織の意義・目的と方法について理解を深め、図書館資料の組織化について基礎的な知識を身に付ける。（1）資料組織化の歴史と現状を理解する。（2）組織化のツールとしての日本目録規則（NCR）と日本十進分類法（NDC）の意義を理解する。（3）資料組織化に関する基礎的な用語を理解する。	
		情報資源組織演習Ⅰ	本授業科目では、図書館における情報資源組織化を理解するための演習を行う。そのため、基礎知識となる「情報資源組織論」の単位取得および取得中の者に限る。授業では、利用者が図書館の所蔵する資料を分野から検索できる主題目録（①分類目録、②件名目録）を作成する。①分類目録：情報資源を配列するための分類法（『日本十進分類法（NDC）』新訂9版 本表編、相関索引・一般補助表編）の知識を身に付ける。②件名目録：情報資源を主題形式の言葉順に配列するための件名標目表（『基本件名標目表：BSH』第4版）の知識を身に付ける。	
		情報資源組織演習Ⅱ	本授業科目では、図書館における情報資源組織化を理解するための演習を行う。そのため、基礎知識となる「情報資源組織論」の単位取得および取得中の者に限る。授業では、情報資源の組織化を行うために『日本目録規則（NCR）』1987年版改訂3版を使い、カード目録やコンピュータ目録を作成し、「資料組織法」、「目録記入」等目録（書誌データ）作成についての基本を学ぶ。また目録作成にあたり、紙媒体の情報資源だけではなく、インターネット上の多種多様な情報資源も対象として演習を行い、利用者への提供の意義を学ぶ。	
		情報サービス論	現代社会における情報ニーズに対応し、将来の発展を見据える能力を養成する。また、情報サービスに関する現象や事実に通じる原理を理解する。本授業は理論的な知識だけではなく、「情報サービス演習」につなげる実践（実務）的な技術についても理解を深め、専門職としての技能（キャリア）形成を行う。また、授業内においてグループディスカッションを取り入れ、他者からの情報収集・分析・発信ができるような形式を取り込み基礎力の養成を行う。	
		情報サービス演習Ⅰ	本授業科目は、「情報サービス論」で学習した基礎知識を基に応用能力を養成する。そのため、受講希望者は、「情報サービス論」の単位取得および取得中の者に限る。授業概要は、情報資源をいかに利用者へ提供するかを考えるとともに情報ツールを把握する。また、情報ツールを使うことにより、利用者のニーズにあった情報を提供するとともにサービスに必須のコミュニケーション能力を演習を行いながら養う。そのほか授業内において学外の組織などと連携して課題解決が主体的にできるようにする。	
		情報サービス演習Ⅱ	本授業科目は、「情報サービス論」で学習した基礎知識を基に応用能力を養成する。そのため、受講希望者は、「情報サービス論」「情報サービス演習Ⅰ」の単位取得および取得中の者に限る。授業では、「情報サービス演習Ⅰ」の演習で身に付けた知識とスキルを活用させ、スキルアップできる演習を行う。また、「情報サービス演習Ⅱ」では、図書館外の企業などでも用いられる情報分析（フレームワーク）を行い、情報収集・発信・提供・維持管理などの知識とスキルを身に付ける。	
		児童サービス論	本授業科目は、子どもを知り、子どもの本を知り両者を結ぶ技術を知ることができるようにする。学生は子どもの読書の大切さを体得することが重要である。そのために読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークなどを実践して読書の楽しさを伝える手法を学ぶ。また、図書館を使った課題解決のためのレファレンスサービスの体験や本の良さを伝えるための書評の書き方を学ぶ。これらを通して子どもと本をつなぐ図書館司書になる基礎を培っていく。	
		図書館情報技術論	情報化社会となっている今日の図書館における業務やサービスは、コンピュータをはじめとしたさまざまな情報技術と密接な関係をもっている。これからの図書館司書には、情報技術に対する知識や技術の向上が求められるようになる。本講義では、図書館業務に必要な基礎的な情報技術を習得するために、コンピュータとネットワークの基礎、図書館業務システム、データベース、電子資料などについて理解する。	
		図書館情報資源概論	図書館における情報資源とはどのようなものか、資料形態（情報）ごとに定義、歴史、意義、特質の基本知識を習得する。そのうえで情報資源に関連する出版流通や著作権、図書館の自由などの現状と動向についての知識を深める。また、図書館情報資源の構築は図書館運営に関わるため、本授業を通して実際の情報資源をみて、情報資源を判断できる実践的見識と能力を養成する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	図書館司書課程科目	図書館サービス概論	図書館にはさまざまなサービスがある。「図書館と利用者」、「図書館職員と利用者」、「図書館と図書館」、「図書館と行政等」、その一つ一つのサービスのあり方や機能を学ぶことにより、図書館サービスの社会的役割を理解する。また、地域のコミュニティとしての文化的・教育的役割についても理解し、職業人（司書）としての意識を高める。	
		図書館制度・経営論	図書館に関する法律、関連する領域の諸法令、図書館政策について理解を深める。さらに図書館経営の考え方、職員や施設などの経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態などとともに図書館施設について学ぶ。	
		図書館サービス特論・図書館情報資源特論	本授業科目では、図書館サービスにおける利用者と図書館の間のコミュニケーションの学びを活用する。次に、近年図書館が取り組んでいる課題解決サービスについて学んだ内容を応用して図書館サービスのあり方を考える。さらに、各分野の情報資源の概念や特性などを踏まえたうえで、文献や情報の特徴や種類を活用する方法を理解する。また、昨今の図書館に求められる多様なニーズについて、最新の情報を使いより学びの理解を深める。	
		図書及び図書館史・図書館基礎特論	図書と図書館に関わる諸現象を各時代の社会体制や文化の発達過程の中で考察し、現在に至った図書館の歴史を理解する。そのうえでこれからの図書館や司書のあるべき姿を考える。図書館について4年間学んだことを横断的に振り返り、人の役に立つ司書になれるような考え方とスキルを身に付け、書いて話せる図書館員になれるように実践を通して学ぶ。 これらを通してデジタル化などの急速な社会の変化に臨機応変に対応できる考え方とスキルを身に付け生きる力を高めていく。	
	学校図書館司書教諭課程科目	学校経営と学校図書館	学校図書館の教育的意義や経営など、学校教育における学校図書館の果たす役割を明確にし、学校図書館全般について理解する。学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務を明確にし、担うべき役割について理解する。本授業科目は、司書教諭科目全体の総括的内容となっている。	
		学校図書館メディアの構成	学校図書館で扱うメディアは、情報社会の進展とともに､図書や雑誌などの伝統的メディアから電子メディアまで多岐に渡る。学校現場ではメディアを校内活動に積極的に取り入れ、子どもたちがメディアを利活用することが望まれている。本授業科目では、学校図書館の役割を認識し、学校図書館で揃えるべきメディアの種類や特性、その組織化について学ぶ。	
		情報メディアの活用	現代社会が情報化・高度化するにつれて、多種多様なメディアが出現している中、司書教諭と生徒双方に求められるのは情報活用能力である。特に、学校図書館の指導に携わる司書教諭は、授業内容に関連した資料や情報を利用するための知識と方法を身に付けておく必要がある。授業では、多様な情報メディアの特性や活用法について学ぶ。	
		学習指導と学校図書館	変化の激しい現代社会において、情報活用能力を培うことが求められている。学校図書館は、学習・情報センターとしての機能を有し、教科・領域などと連携協働して、児童・生徒の学習指導の展開や学習活動を支える役割を持っている。学習指導における学校図書館の機能と司書教諭の役割は何かについて理解する。図書館を活用し、自ら探究型学習を行うことで、児童・生徒の情報活用能力の育成方法について学ぶ。	
		読書と豊かな人間性	生涯学習社会といわれる今日において、子どもの生涯にわたる読書習慣を形成するためには、早期の読書教育が必要である。子どもの読書実態を踏まえた読書指導について、司書教諭の役割を理解する。子どもと本を結び付け、読書習慣を形成するためのさまざまな方法や技能について、演習しながら学ぶ。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	K―CIP科目	公務員試験概論	公務員採用試験対策の準備段階として、公務員の職種紹介を行い、志望職種を選択するために必要な情報提供を行う。また、試験制度や受験科目の説明を行い、今後の学習の指針を示す。さらに、数的処理といった公務員試験特有の科目紹介、身の回りのニュースなどを題材にした社会科学分野の学習などを通じて、今後の学習の準備を行う。この講義を通じて、公務員試験について理解し、今後の学習計画が立案できることを目指す。	
		数的処理Ⅰ	公務員採用試験での判断推理、数的推理、資料解釈といった科目や、民間企業採用試験で実施されるSPI3試験の非言語分野の問題で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。本授業科目では特に基礎的な内容を重視し、多くの問題に触れながら解法のポイントを紹介し、課題を論理的に解決する方法を学ぶ。また、問題解決で必要になる数学に関する知識に関しても中学校、高等学校の復習を行い、基礎的な数学力を身に付ける。	
		社会科学Ⅰ	公務員採用試験で出題される社会科学の内容について学習する。この講義では社会科学の中でも特に経済分野の学習を中心に行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目のミクロ経済学や経済史、金融政策などの基礎的な内容まで学習する。本授業科目を受講することによって、公務員採用試験での社会科学分野での得点力向上や知識習得だけでなく、専門科目の学習をスムーズに始めることができる。	
		文章理解	公務員採用試験での「文章理解」や民間企業採用試験で実施されるSPI3試験などで課せられる長文読解を中心に講義を行う。文章読解能力は採用試験で必要となるだけでなく、日常的なコミュニケーションやあらゆる科目の学習の基礎となる能力であり、社会で活躍する人材になるうえで必要不可欠な能力である。本授業科目ではより多くの文章に触れながら自ら文章を読み、自ら考えることを重視し、読解能力の向上を目指す。	
		数的処理Ⅱ	公務員採用試験での判断推理、数的推理、資料解釈といった科目や、民間企業採用試験で実施されるSPI3試験で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。本授業科目では「数的処理Ⅰ」で学習した内容を基に、さらに多くの問題に触れながら応用問題、発展問題の解法について学習を行う。また、「数的処理Ⅰ」では学習しなかった問題についても学習し、数的処理能力を向上させ、より多くの課題を解決できる力を身に付ける。	
		数的処理Ⅲ	公務員採用試験での判断推理、数的推理などの科目で必要となる数的処理能力の向上を目指し講義を行う。本授業科目では「数的処理Ⅰ・Ⅱ」で学習した内容を基に、実際の公務員採用試験の問題にも触れながら問題の解法について学習を行う。また、「数的処理Ⅰ・Ⅱ」では学習しなかったパターンの問題の解法などについても学習し、採用試験に向けてより実戦的な力を身に付け得点力の向上、課題解決能力の向上を目指す。	
		社会科学Ⅱ	公務員採用試験で出題される社会科学の内容について学習する。本授業科目では社会科学分野の中でも特に政治・法律分野の学習を中心に行い、高等学校で学習する政治経済分野の内容だけでなく、専門科目の憲法や政治学などの基礎的な内容まで学習する。この講義を受講することによって、公務員採用試験での社会科学分野での得点力向上や知識習得だけでなく、憲法などの専門科目の学習をスムーズに始めることができる。	
		人文科学	公務員採用試験で出題される人文科学の内容について、中学校、高等学校での学習内容の復習を中心に講義を行う。本授業科目で学習する内容は、民間企業、公務員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、社会人として必要な知識を習得する。各科目ごとの講義回数は少ないため、特に採用試験で頻出のテーマや一般常識として身に付けておきたいテーマを中心に講義を行い、今後の学習に繋げることを目的とする。	
		自然科学	公務員採用試験で出題される自然科学の内容について、中学校、高等学校での学習内容の復習を中心に講義を行う。本授業科目で学習する内容は、民間企業、公務員を問わず、就職試験で一般常識として問われる内容でもあり、社会人として必要な知識を習得する。各科目ごとの講義回数は少ないため、特に採用試験で頻出のテーマや一般常識として身に付けておきたいテーマを中心に講義を行い、今後の学習に繋げることを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	K―CIP科目	憲法演習	公務員採用試験で出題される憲法について学習する。憲法は全ての法律の拠り所となる存在で、数多くの法律の中でも重要な役割を担っている。総論、人権、統治機構が主な内容であり、本授業科目では、これらの内容について条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		行政法演習	公務員採用試験で出題される行政法について学習する。公務員として働くうえで行政に関する法律の知識は必須である。本授業科目では、地方自治法や行政手続法、国家賠償法などの行政法について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		民法（総則、物権）演習	公務員採用試験で出題される民法について学習する。民法は身近な法律ではあるが、条文の数や論点が多く、学習する内容は膨大である。本授業科目では、民法の中でも総則、物権の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		民法（債権、親族・相続）演習	公務員採用試験で出題される民法について、既に学習した民法（総則、物権）演習に引き続き民法の重要論点について学習する。本授業科目では、民法の中でも債権、親族・相続の内容について、特に公務員試験で重要になる条文の理解や重要な判例の学習を行う。また、各論点について公務員採用試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		ミクロ経済学演習	公務員採用試験で出題されるミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学では消費者や企業の行動に着目し学習を進める。また、微分などの数学的な知識が必要となるが、初学者でも理解できるように講義を進めていく。本授業科目では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に出題される試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		マクロ経済学演習	公務員採用試験で出題されるマクロ経済学について学習する。マクロ経済学では国家や市場に着目し学習を進める。また、微分などの数学的な知識が必要となるが、初学者でも理解できるように講義を進めていく。本授業科目では、特に公務員採用試験で重要になる論点の学習を行うが、同時に実際に出題される試験問題にも触れることで、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		法律科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される法律科目について、憲法、民法、行政法の重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても学習を行う。また、刑法や労働法といった、その他の法律科目の内容についても、条文やの理解や重要な判例の学習を行う。特に刑法については理論やその学説、労働法については労働基準法など社会人として知っておきたい知識などについて学習を行う。	
		法律科目演習Ⅱ	「法律科目演習Ⅰ」に引き続き、公務員採用試験で出題される法律科目（憲法、行政法、民法、刑法、労働法など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		経済科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される経済科目について、ミクロ経済学、マクロ経済学の重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても学習を行う。また、この講義では財政学や経済事情といった、その他の経済科目の内容についても講義を行う。財政学では財政理論や財政制度などについて、経済事情については国や地方自治体の一般会計などのデータについて学習を行う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	K―CIP科目	経済科目演習Ⅱ	「経済科目演習Ⅰ」に引き続き、公務員採用試験で出題される経済科目（ミクロ経済学、マクロ経済学、財政学、経済事情など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		行政科目演習Ⅰ	公務員採用試験で出題される行政科目について、政治学、行政学、国際関係などの多岐にわたる科目の学習を行う。政治学では政治制度や政治思想、行政学では官僚制度や行政理論、国際関係では国際情勢や外交史などについて学習し、いずれも行政職として働くうえで基礎となる知識になる。これらの科目の学習を通じて、単に採用試験に合格するための知識としてだけではなく、行政職として活躍できる人材育成の土台作りを行う。	
		行政科目演習Ⅱ	「行政科目演習Ⅰ」に引き続き、公務員採用試験で出題される行政科目（政治学、行政学、国際関係、社会科学、社会事情など）に関して重要論点について復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		会計学演習	公務員採用試験で出題される会計学について学習を行う。公務員採用試験において会計学は国税専門官の採用試験で出題される科目で、その出題数も多い。簿記に関する内容を多く含むので、受講前に日本商工会議所主催の簿記検定2級まで学習を終えていると内容を理解しやすい。本授業科目では公務員試験で出題される実際の試験問題にも触れ、学習した内容が試験においてどのように問われるのかについても学び、より理解を深める。	
		専門科目記述式演習	国税専門官、裁判所職員などの採用試験で実施される記述試験の対策を行う。国税専門官では憲法、民法、経済学、会計学、社会学の5科目から選択、裁判所事務官では憲法が出題されるが、本授業科目では法律と経済学の対策を主に行う。自由記述式の試験であり、より深い知識が必要となるため、ある程度学習が進んでいる学生を対象とする。過去の出題例を基に重要論点について自分の言葉で論述できるように、実践的な演習を行う。	共同
		公務員試験直前対策Ⅰ（教養）	公務員採用試験で出題される教養科目の知能分野（文章理解、数的処理）、知識分野（社会科学、人文科学、自然科学）の問題演習を行う。本授業科目では基本事項、重要事項の確認を行いながら、より発展的な問題も出題し応用力、実戦力を育成する。また、模擬試験形式で問題演習を行い、速く正確に問題を解くことを講義内で訓練し得点力の向上を目指す。さらに試験情報の提供や、今後の学習の進め方など受験に向けたアドバイスも行う。	
		文章理解演習	既に学習した文章理解の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される現代文や英文の内容把握を中心とした長文読解の学習を行う。講義内で重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容についても取り扱う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		人文科学演習	既に学習した人文科学の講義に引き続き、公務員採用試験で出題される日本史、世界史、地理、文学・芸術などの人文科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		公務員試験直前対策Ⅱ（教養）	「公務員試験直前対策Ⅰ（教養）」に引き続き、公務員採用試験で出題される教養科目に関して模擬試験形式で問題演習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。また、試験情報の提供などの受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
自由選択科目	K―CIP科目	社会科学演習	既に学習した「社会科学Ⅰ・Ⅱ」に引き続き、公務員採用試験で出題される法律、政治、経済などの社会科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		自然科学演習	既に学習した「自然科学」に引き続き、公務員採用試験で出題される数学、物理、化学、生物、地学などの自然科学分野に関する重要論点の復習を行い、さらに今までに学習していない内容や、応用的、発展的な内容について学習を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。	
		公務員試験直前対策Ⅰ(SPI)	一部の公務員採用試験で導入されているSPI3やSCOAなどの従来の公務員採用試験とは異なる試験形式の対策を行う。これらの試験は従来の公務員採用試験よりは難易度が低いが、時事問題なども含まれるため、幅広い知識が必要となる。また、出題数が多いことから平易な問題を素早く解く訓練も必要となるため、それらを意識した講義を行う。さらに試験情報の提供や、今後の学習の進め方など受験に向けたアドバイスも行う。	
		公務員試験直前対策Ⅱ(SPI)	「公務員試験直前対策Ⅰ（SPI）」に引き続き、公務員採用試験で導入されているSPI3やSCOAなどの試験形式の対策を行う。特にこの講義は、今までの学習の総復習的な位置付けで、数多くの問題演習を繰り返すことで、既に学習した知識の見直し、整理、定着を心掛け、採用試験における得点力の向上を目指す。また、試験情報の提供などの受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
		公務員試験直前対策Ⅲ（教養）	既に学習した「公務員試験直前対策Ⅰ・Ⅱ（教養）」に引き続き、模擬試験を中心とした講義を行う。その中で時間配分や問題の取捨選択など、筆記試験合格に向けて、より実践的な練習を行う。また、知識を総整理するために解説講義も行い、重要事項や間違いやすい論点を再確認し、間違った問題の復習にも力を入れる。さらに、試験情報の提供など受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
		公務員試験直前対策Ⅲ(SPI)	既に学習した「公務員試験直前対策Ⅰ・Ⅱ（SPI）」に引き続き、問題演習を中心とした講義を行う。その中で早く正確に解くための訓練を行い、一次試験合格に向けて得点力を向上させる。また、知識を総整理するために解説講義も行い、重要事項や間違いやすい論点を再確認し、間違った問題の復習にも力を入れる。さらに、試験情報の提供など受験のアドバイスを行い、併せてエントリーシート作成などの人物試験対策の準備も進める。	
		公務員人物試験対策	公務員採用試験の人物試験対策を行う。本授業科目では特に、面接試験の準備を重視し、エントリーシートの作成や、個別面接、集団面接のロールプレイングを行い、面接試験に向けた対策をを行う。また、論作文試験についても解説講義を行ったうえで論作文の添削を行う。さらに、一部の自治体では集団討論やグループワークが実施されるため、実際にグループに分かれて体験することで実戦力を身に付け、人物試験合格を目指す。	
	留学生特別科目	初級日本語ⅠA	発音から学ぶ初級レベルの授業で、言語知識を勉強しながら会話力を少しずつ身に付ける。日常生活に必要な文法知識と基礎会話を習得する。メインの教科書の他に生の会話や文化的なものを教材として活用する。	
		初級日本語ⅡA	文の構造と意味・機能の総合的理解を目標に、新しい文型を導入し、状況に応じて運用できるようになる練習をする。文法とともに会話力を磨く。	
		初級日本語ⅠB	発音から学ぶ初級レベルの授業で、言語知識を勉強しながら会話力を少しずつ身に付ける。日常生活に必要な文法知識と基礎会話を習得する。メインの教科書の他に、生の会話や文化的なものを教材として活用する。	
		初級日本語ⅡB	様々な日常生活の場面で自然な日本語を運用して、日本語能力試験N3レベルの語彙と文法項目を学習する。文法を駆使して、発音、文章を書く練習を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
留学生特別科目	初級日本語ＩＣ	課題遂行型（タスク型）の教科書を使って、（1）音声を聞く（2）話す活動をする（3）振り返る、のステップを繰り返すことで、CEFR-A1～A2レベルの日本語力を身に付けることを目指す。また、聴解音声を使って、ある程度まとまったテキスト（CEFR-A1～A2レベル）のインプットを理解することを目指す。	
	初級日本語ⅡＣ	課題遂行型（タスク型）の教科書を使って、（1）音声を聞く（2）話す活動をする（3）振り返る、のステップを繰り返すことで、CEFR-A2レベルの日本語力を身に付けることを目指す。また、聴解音声を使って、ある程度まとまったテキスト（CEFR-A2レベル）のインプットを理解することを目指す。	
	初級日本語ＩＤ	本授業科目は発音からスタートする初心者向けの入門コースである。メイン教科書の内容に従って、「基礎発音、単語、文型」という流れに沿いながら基本文型の繰り返し練習と学生の発話訓練に重点を置く。日本語の基礎文法をしっかり身に付け、日常生活に必要なコミュニケーション能力を育てる。	
	初級日本語ⅡＤ	初級用テキストで学んだ表現を使って出来事や状況を説明したり質問に答えたりする練習をする。パワーポイントを使って住んでいる町や家族を紹介する練習も行う。	
	初級日本語ＩＥ	本授業科目は聴力をメインとする初級者向けの聴解訓練コースである。教科書『日本語聴力第三版学生用書入門編』（中国華東師範大学出版社）の内容に沿い、重要単語や基本文型を繰り返して聴く練習や要点説明を通して日本語を「聞く」力を育成する。また、授業の進度に合わせ、『みんなの日本語初級Ｉ聴解タスク25』を利用して聴解練習も行い、文脈分析、既知知識を使った予測または推測能力を養成する。	
	初級日本語ⅡＥ	初級レベルの文型や語句を使った会話アナウンス、スピーチ等が正しく聞き取れることを目指す。	
	日本語講座Ｉ	『日本語1級能力試験対策』および模擬試験問題集を教材とし、日本語の表現、文法、語彙の意味用法、読解力を養成する。また、言葉の勉強と同時に日本社会・文化に対する理解も深めていく。	
	日本語講座Ⅱ	「日本語講座Ｉ」の準1級レベルの続きとして、後期は文字、語彙、文型、読解を中心に、『日本語1級能力試験対策』および日本語表現文型を教材とする。日本の社会、文化についての理解を深めさせるような講義内容を心掛ける。	
	日本事情Ｉ	現代日本のアニメーション・マンガ作品等を教材の中心としながら、それらの作品にこめられている作者のメッセージやその魅力を読み取る。この授業は、担当教員からの解説だけではなく、授業で取り上げた作品について受講生の日本語による発表も毎回行う。	
	日本事情Ⅱ	現代の日本を知るために、現在日本でヒットしているアニメ作品、マンガ作品、映画、ドラマ等を材料としながら、俯瞰していく。それらの作品の魅力やメッセージを読み取ることがすなわち、現在の日本を知ることになると考えるからである。	
	比較文化Ｉ	言語、文化、コミュニケーションについての基本概念を説明する。次に、中国の文化と日本の文化を例に比較する。比較の観点は、日本と中国で異なると思われるものを見つけ出して比較するだけではなく、共通性の観点からも比較の作業を行う。他国の文化および自国の文化を正しく理解できるように講義を進める。授業の進め方は、講義形式とゼミ形式を併用する。授業を通して、コミュニケーションおよびプレゼンテーションのスキルアップも図る。	
	比較文化Ⅱ	「比較文化Ｉ」で学んだ理論的な内容を実際に応用してもらう。ヒト・人類の政治的社会的文化的な行動・価値観・規範のそれぞれ異なる顕れと見なして具体相を知り、そのことを通して多文化共生社会を構築できることを目指す。まず、多文化社会におけるコミュニケーションのスキルについて説明する。次に、異なる文化的背景の人とコミュニケーションが取れるように、多種多様な文化を比較しながらその共通性の観点からも考えを深める。授業の進め方は、講義形式とゼミ形式を併用する。授業を通して、コミュニケーションおよびプレゼンテーションのスキルアップも図る。	